

Sustainability Report 2015

不二製油グループ サステナビリティレポート



写真：チョコレート

よりおいしいカカオ豆、より良い製造技術の追求を
長年続けています。
油脂技術を利用して、パン・アイス用コーティング
チョコレート、成型チョコレートなど、機能を備えた
製品や多彩なカラーチョコなど、チョコレート製品
全般を幅広く展開しています。

【ミッション(使命)】

私たち不二製油グループは、
食の素材の可能性を追求し、
食の歓びと健康に貢献します。

〔サステナビリティレポート 2015 について〕

編集方針

本報告は、不二製油グループが持続可能な社会に貢献するため取り組んでいる
内容について、ステークホルダーの皆様にご理解をいただくとともに、忌憚のない
ご意見を賜り、更なる進展を図ることを目的としています。

なお、冊子版は特に重要性の高い活動について報告しており、Web版は網羅性を
重視し、広範なステークホルダーの皆様への説明責任を果たすように構成しています。

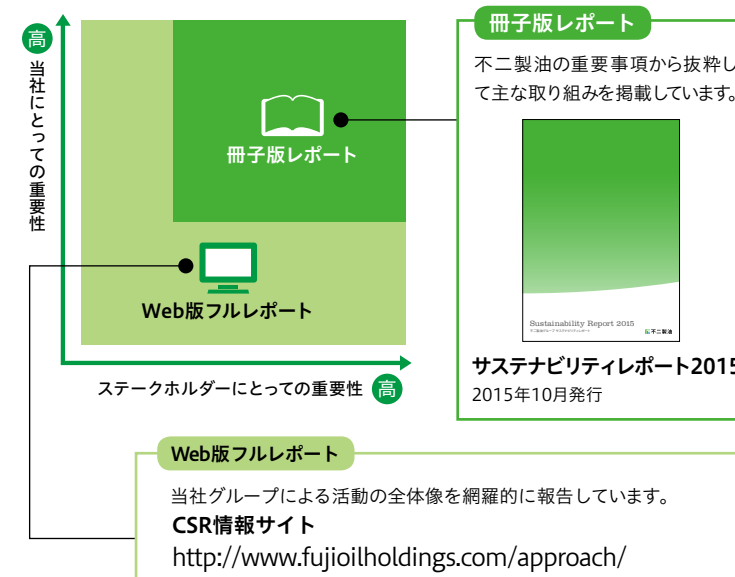
■ 不二製油グループは2015年10月、グループ本社制に移行しました。同時に企業理
念を見直し、「食の素材の可能性を追求し、食の歓びと健康に貢献する」ことを使
命としています。

本報告は、基軸が「サステナブル経営」であることを明確にし、2020年の「あるべき
姿」、2030年の「ありたい姿」を実現していくために設定した「6つの重点テーマ」の
活動の進捗、および「サステナブル経営を支える体制」、「社外からの評価」で構成し
ています。

■ 冊子版では、当社の「サステナブル経営」の考え方と活動概要を的確にご理解いた
だくため、経営の基本的な考え方（戦略）と「6つの重点テーマ」(実践)についての開
示に絞り込んだ報告書としました。

報告対象範囲等

- **事業所の対象範囲**
不二製油グループの活動を中心に掲載しています。環境データについては、不二製油株式
会社（日本）、国内グループ会社（生産拠点）のトーラク（株）、フジフレッシュフーズ（株）、（株）
エフアンドエフ、オーム乳業（株）を含みます。上記以外を対象とするときは、データとともに
集計範囲を記載しています。
- **対象期間**
不二製油（日本）および国内グループ会社は2014年度（2014年4月1日～2015年3月
31日）、海外グループ会社は2014年度（2014年1月1日～12月31日）の実績です。活動
や取り組み内容は、一部に過去および直近のものも含みます。
- **発行時期**
発行日：2015年10月 次回発行予定：2016年9月
- **参考にしたガイドライン**
環境省「環境報告ガイドライン（2012年版）」
GRI(Global Reporting Initiative)「サステナビリティリーディングガイドライン第3.1版」
- **会社名の表記について**
本報告書における会社名の表記は以下の通りです。
不二製油（日本）、当社（日本）：日本国内の事業所
不二製油グループ、当社グループ：不二製油（日本）を含む国内外のグループ会社



INDEX

- 02 サステナビリティレポート2015について
- 03 不二製油グループのプロフィール

社長インタビュー

- 05 持続可能な未来を開くために。

不二製油グループの新戦略

- 07 サステナブル経営
- 08 ルネサンス不二2017
- 12 グループ本社制への移行と
地域への権限委譲
- 13 地域統括会社・地域代表会社
トップコミットメント/
事業会社一覧

サステナブル経営の実践 ～6つの重点テーマ～

- 15 食の創造（健康・栄養・食資源）
- 19 食の安全・安心・品質
- 21 サステナブル調達
- 25 環境
- 29 人づくり
- 32 リスクマネジメント

サステナブル経営を支える体制

- 33 コーポレートガバナンス/
コンプライアンス
- 35 地域・社会との共生
- 36 第三者意見

不二製油グループは国連グローバル・ コンパクトに賛同し署名しています

不二製油グループは、2013年1月、国連グローバ
ル・コンパクトに署名しました。当社グループは、
人権・労働・環境・腐敗防止の
4分野10原則を実践していくこ
とで、自社グループのみならず社
会全体の持続可能性の向上に
貢献しています。



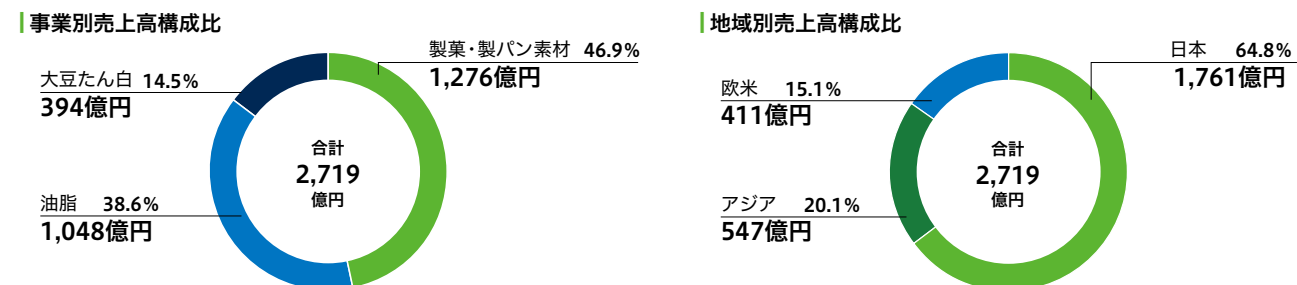
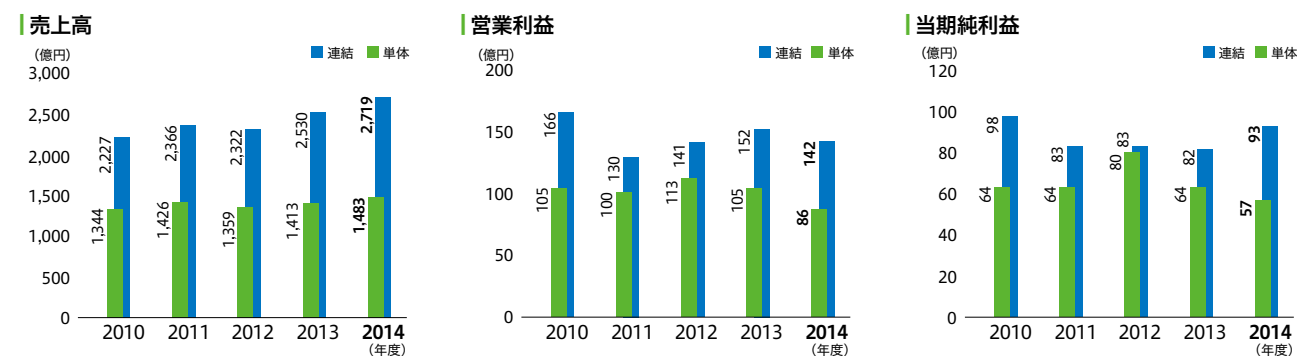
[不二製油グループのプロフィール]

会社概要

商 号：不二製油グループ本社株式会社
 本社所在地：大阪府泉佐野市住吉町1番地
 設 立：1950年(昭和25年)10月9日
 資 本 金：13,208百万円(2015年3月末現在)
 代 表 者：代表取締役社長 清水 洋史

従 業 員 数：連結 4,367名(2015年3月末現在)
 子会社・関連会社：連結子会社 25社 持分法適用関連会社 4社
 (2015年3月末現在)

連結財務ハイライト



原料と事業領域

不二製油グループは、1950年創業の後発製油メーカーです。「人マネをしていては道はない」との思いで培った技術を活かして事業を展開してきました。世界では地球温暖化をはじめとする環境問題、人口増加による食糧資源の問題など課題が山積しています。そのような中でも、万国共通の人々の思いとして、健康への願いがあります。当社グループは、半世紀以上にわたって研究開発を進めてきた植物性油脂、大豆たん白の

技術をベースに、油脂、製菓・製パン素材、大豆たん白の三つの事業を展開しています。これらの事業を通してさまざまな社会課題に向き合い、食の創造を通して人々の幸せに貢献しています。



主な製品

ホイップクリーム、マーガリン、フィリング等

- ・ホイップクリーム
- ・製菓用マーガリン
- ・製パン用マーガリン
- ・フィリング
- ・フレッシュチーズ風味素材
- ・熟成チーズ風味素材
- ・冷凍パイ・クッキー生地
- ・ベシャメルソースベース
- ・ホワイトソース



大豆たん白

- ・粉末状大豆たん白
- ・粒状大豆たん白
- ・水溶性大豆多糖類
- ・大豆ペプチド
- ・大豆素材
- ・大豆たん白食品



チョコレート

- ・クーベルチュールチョコレート
- ・洋生チョコレート
- ・グレーズチョコレート
- ・ガナッシュ
- ・生チョコレート
- ・成型チョコレート
- ・アイスコーティングチョコレート
- ・焼きチョコ
- ・ノンテンパリングチョコレート



豆乳素材

- ・USS製法によるプレミアム豆乳製品
- ・豆乳素材



油脂

- ・チョコレート用油脂
- ・製菓用油脂
- ・フライ・スプレー用油脂
- ・冷菓用油脂
- ・乳化油脂
- ・粉末油脂
- ・潤滑・離型油



家庭用商品

- ・グループ会社製品と通信販売
- ・デザート
- ・大豆たん白食品
- ・健康食品



持続可能な未来を開くために。

究極の目的は「サステナブル経営」

Q 不二製油グループの「サステナブル経営」とは、どのような位置づけでしょうか。

中期経営計画では「グローバル経営」、「技術経営」、「サステナブル経営」の三つの柱を基本方針に立てています。しかしこれらは並列ではなく、「サステナブル経営」は究極の目的という位置づけです。日本の人口は2008年から減少に転じています。企業にとって非常に厳しい環境であり、このような社会で当社グループは、食品素材を製造・販売することを事業としているわけです。こうした前提のもとで生き残っていくには、「サステナブル経営」が最も重要でなければいけないという結論になるはずです。

日本で限界が来るのであれば、当社グループの製品を必要とする海外に出ていかなくてはなりません。それが「グローバル経営」であり、いまや「グローバル経営」なくして、「サステナブル経営」はないのです。そして、これを実現するための基本戦略が、技術を根幹とする「技術経営」です。この三つの関係を理解することが、中期経営計画を推進・加速するために非常に重要です。

一方現代は、モノは豊富にあるけれど何が欲しいのか消費者が分からなくなっている時代です。そういう社会で当社グループは何をもって貢献していくのか。サステナブルとは何かをしっかりと理解できていない会社が存続できるはずがないと、危機感を持つべきです。

人と地球の健康に貢献する大豆事業で「サステナブル経営」を実践

Q 「サステナブル経営」の実践のうち大豆事業について、その背景と取り組みについて教えてください。

世界人口が2050年には95億人に達するといわれている中で、動物性たん白が不足するのは目

に見えています。地球が疲弊している中で当社グループだけが繁栄するということはありません。人の健康と地球の健康は密接な関係にあるのです。

当社グループは油脂、製菓・製パン素材、大豆たん白で事業を展開しており、どの事業も「サステナブル経営」でなくてはならないのは当然ですが、「サステナブル」を特に強く打ち出しているのは大豆たん白事業です。大豆たん白は動物性たん白の不足を補い、かつ健康的にも栄養的にも価値の高い食べ物ですが、健康になるためにはまずは食べていただく必要があります。おいしく、繰り返し食べていただき、健康になっていただく。おいしさと人の健康は直結しています。人の健康と地球の健康は、この点でつながっているのです。私たちは「人の幸せ」や「地球の幸せ」を真面目に考えている会社であると自負しています。

本当においしい大豆製品をつくるために、当社グループはUSS製法（P16参照）を生み出しました。世界の人々の健康に貢献し地球の健康に貢献して初めて、当社グループの未来が開け、「サステナブル経営」も成り立つのです。

グループ本社制で現地のニーズに対応

Q 2015年10月にグループ本社制に移行したことについて、考えを聞かせてください。

グループ本社制への移行を決めた動機のひとつに、「グローバル経営」を展開していくうえでは現地に権限を委譲し、そこで決めてやっていくべきという考えがあります。市場によって必要とされる製品・サービスが違うという前提に立っています。まず価値は現地の市場にあるのですから、その地域においてグループに求められているものは何かを考える。アジアといっても、シンガポール、タイ、マレーシア、インドでは言葉も食文化も異なっていて、そこにそれぞれの長い歴史があり、現地のニーズを汲んで当地の人たちに貢献しなくてはなりません。これを無視して日本の方針を押し付けても受け入れられませんし、現地の発展に寄与することも不可能です。「グローバル経営」のキーワードは、「スピード」「コスト」「現地化」の三つです。

また、グループ本社の役割は三つあると考えています。一つ目はグループ全体の「ガバナンスを効かす」こと。二つ目はグループ全体の「ヒト、モノ、カネ」の資源配分を決める「戦略集団」としての役割。三つ目は「グローバルな人づくり」です。

なお、グループ本社制への移行に伴い、当社グループの価値観の共有化や行動指針の明確化を目的とした「グループ憲法」を制定しました。

未来を開く鍵は「人づくり」

Q 清水社長の「人づくり」についての考えを聞かせてください。

事業を行う上で、ニーズの探索や製品の開発、あるいは戦略を立案し決断・実行する、ガバナンスを効かすといったことは、すべて組織を構成する「人」がすることです。当社グループの「サステナブル経営」を実践する上で一番大切なことは、本当に相手の気持ちに立てるか、相手がしてほしいことを想像する能力があるか、ということです。他人からどう見えているか、どこに期待されているのかということを意識できない人が多くなっていると感じています。そこを意識して、人を感動させるのは非常に重要なことです。そういう「人づくり」を進めていきたいと考えています。

当社グループが社会の変化についていくためには、「変革」が必要です。ダイバーシティも「変革」に大きく役立つ考え方です。今年、社外から女性役員を迎えたことも、外国人や女性を登用することも基本は同じです。ダイバーシティの基本も「相手の気持ちに立てるかかどうか」です。現在、当社（日本）では、ワーキングマザーの発案でスタートした食育プロジェクトに取り組んでいます。日本をはじめ世界の将来を支える子どもたちに「食」の大切さを伝えるにはどうすればよいか、ワーキングマザーたちは「母親の想い」で考えています。一方で、子どもの気持ちが母親を通して当社グループに入ってくることに意義があります。

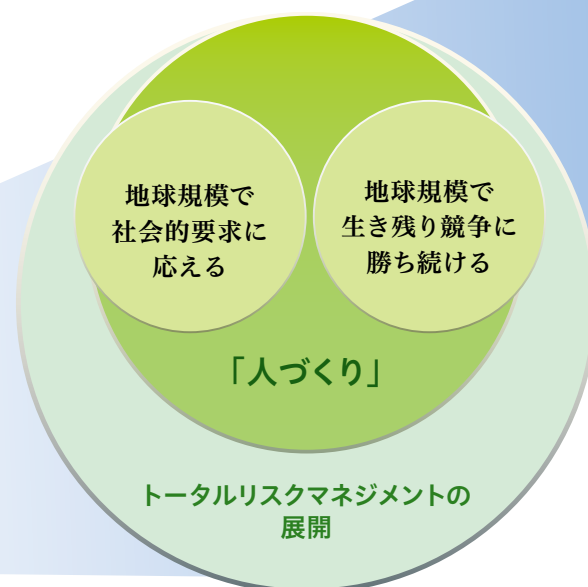
こういう視点から「人づくり」においてはグローバル人材の育成やダイバーシティを強力に推し進めていく考えです。

不二製油グループ本社株式会社
代表取締役社長

清水洋史

世界の課題に事業で貢献する 「サステナブル経営」

食資源の不足、健康問題、環境破壊、人権問題など、世界には課題が山積しています。こうした中で、更なるグローバル化を進める不二製油グループは、地球規模での熾烈な競争に生き残るため「サステナブル経営」を最重要戦略としています。食品素材企業である当社グループは、「食」の分野で世界の課題に向き合い、6つの重点テーマを設定して、「目指す姿・使命」の実現に向けて取り組んでいます。



目指す姿・使命

世界の人々を
幸せにするために、
おいしさ・健康を社会に
提供し続け、社会から
期待される会社となる

世界の課題	6つの重点テーマ
健康不安・食資源不足 <ul style="list-style-type: none"> 世界的な高齢化の進展 栄養不足、栄養過剰人口の増加 世界人口の増加による食糧需給の逼迫 食の安全・安心への不信任感 	食の創造（健康・栄養・食資源） 人口の増加に伴う食資源の不足、高齢化、生活習慣病、栄養不足と栄養過剰などが世界的な課題となる中、健康・栄養・食資源などの分野で研究開発と製品づくりに取り組み、事業を通じて社会に貢献しています。 掲載ページ 》P.15
	食の安全・安心・品質 「食」の安全・安心への信頼が揺らぐ出来事が各地で発生しています。当社グループは「品質指針」を定め、「不二製油グループ 安全品質環境 基本方針」に基づいて、お客様に満足いただける製品を提供しています。 掲載ページ 》P.19
原料調達 <ul style="list-style-type: none"> パーム、カカオの産地における環境および人権問題の顕在化 世界的な原料調達の不安 原料相場の上昇、高止まり 	サステナブル調達 当社グループ製品の主原料であるパーム、カカオ、大豆、シアの調達については、生産方法、労働環境、人権、環境配慮など持続可能な方法で生産された原料の調達に努め、トレーサビリティの確立に向けて取り組んでいます。 掲載ページ 》P.21
環境課題 <ul style="list-style-type: none"> 地球温暖化の深刻化 水不足、エネルギー不足の深刻化 生物多様性の破壊 	環境 当社グループは、地球温暖化防止、水資源の保全、資源リサイクルなど、重点的に取り組むべきテーマとその目標を定めた長期ビジョン「不二グループ環境ビジョン2020」を定め、積極的に活動を展開しています。 掲載ページ 》P.25
グローバル化、価値観の多様化 <ul style="list-style-type: none"> グローバル化に対応した人材の必要性 女性の社会進出の拡大 多様性の尊重、人権の尊重 	人づくり 中期経営計画では、グローバル経営の要として、グローバル人材の育成とダイバーシティに注力。多様な価値観を理解し、自ら考え、判断できる「人づくり」を重点テーマに位置づけて取り組んでいます。 掲載ページ 》P.29
グローバルリスク、コンプライアンス違反 <ul style="list-style-type: none"> 自然災害 紛争、戦争、国・地域におけるコンプライアンス違反等 	リスクマネジメント 事業のグローバル展開により生じる多様なリスクを最小化するため、平時の対策と、突発的な大事故によって発生する損失を最小限に抑えて事業を継続する「クライシス・マネジメント」の両側面で活動を推進しています。 掲載ページ 》P.32

ローリング中期経営計画 ルネサンス不二2017

不二製油グループは、ローリング中期経営計画「ルネサンス不二2017」を策定しています。「ルネサンス不二2017」は2030年の「ありたい姿」2020年の「あるべき姿」を実現するためのロードマップであり、ステークホルダーへのコミットメントであると認識しています。当社グループは、経営環境、事業投資の変化に対応し、成果と課題を検証しながら、方針・戦略をレビューし、毎年向こう3か年の事業計画

を策定する「中期経営計画のローリング方式」を採用しています。「ルネサンス不二2017」は、グループ本社制への移行による経営体制の変革、ブラジルハラルド社の買収によるグローバル展開の拡大を折込み、昨年策定の「ルネサンス不二2016」を更新し、2017年度売上高3300億円以上 営業利益200億円以上 ROE8%を目標としています。

中長期ビジョン

「ルネサンス不二2016」で示した中長期ビジョン、2030年の「ありたい姿」、2020年の「あるべき姿」を堅持しつつ、今回ローリングした「ルネサンス不二2017」ではグローバル経営の確立に向けて取り組みを強化していきます。そのポイントとなるのがグループ本社制移行によるグループ経営の確立、ならびにCBE※、コンパウンドチョコレートに代表される世界戦略製品群（P10参照）の明示です。

※チョコレート用油脂



2014年度KPI進捗状況

事業・エリアの成長戦略・収益構造改革・経営基盤強化からなる「基本戦略」と、「財務戦略」「資本戦略」を変革のための三本の矢とします。

不二製油グループ製品のコモディティ化、利益率の低下などといった課題が明確になってきており、既存施策の延長だけでは「ありたい姿」の達成は難しく、中長期ビジョンを達成するために、今回の中期経営計画では、戦略の見直しを行いました。以下に示したKPIの達成が中長期ビジョンの実現につながると考えています。

中計戦略			指 標	2014年度実績	2017年度目標
基本戦略	成長戦略 事業／ エリア戦略	油脂セグメント	海外CBE拡販(数量) *2013年度実績を100とする	110%	155%以上
		チョコレートセグメント	拡販(数量) *2013年度実績を100とする	108%	265%
		アジアエリア(中国含まず)	製菓3品拡販(数量) *2013年度実績を100とする	111%	180%以上
		米州エリア(ブラジル)	CBE／CBS拡販(数量) *2013年度実績を100とする	112%	140%以上
			チョコレート拡販	－	2013年度日本市場の 1.5倍以上
	収益構造改革	事業構造改革	損益改善額	2015年以降実現	大豆たん白事業の 構造改革完了
		プロセス構造改革	コスト削減額	11.6億円	毎年10億円以上
	経営基盤強化	グローバル経営	グループ本社制移行／2015年10月	－	経営体制確立
ダイバーシティの推進		女性管理職人数 2013年度実績2%	3% (4/1時点)	5%以上	
財務戦略		戦略的キャッシュフロー配分	3ヵ年設備投資400億円 ・戦略投資:300億円 ・一般投資:100億円	設備投資 112億円	戦略投資 300億円(3ヵ年)
資本戦略	株主価値最大化	連結ROE	6.8%	8%以上	
	株主還元策	配当性向	27.6%	30%	

経営指標の目標値

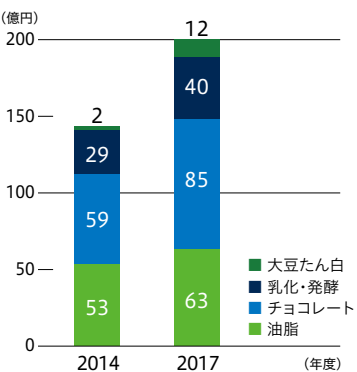
経営指標の「2017年度のガイドライン」として下表を設定しました。この目標値には、2015年6月にグループ会社化したハラルド（ブラジル）の計画を含めて算出しています。なお、今期より目標値については、水準を示す「以上」の表記に改めました。

セグメント、エリアごとの利益計画では、2014年度対比で、事業セグメントではチョコレートで約30億円、エリアでは中国を含むアジアで約20億円、米州では約30億円の伸長を計画しています。

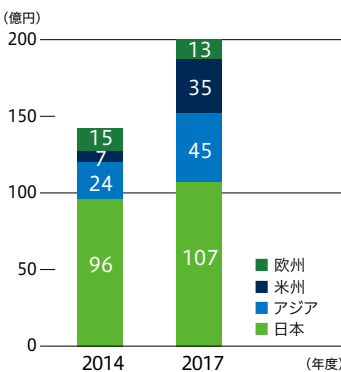
2017年度ガイドライン

	2014年度	2015年度	2017年度
売上高(億円)	2,719	3,000	3,300以上
営業利益(億円)	142	160	200以上
営業利益率	5.2%	5.3%	6%以上
ROE	6.8%	6.8%	8%以上
海外利益比率	33%	38%	40%以上

連結セグメント別営業利益計画



連結エリア別営業利益計画



成長戦略の概要

基本戦略では成長事業に経営資源を傾斜配分します。事業ポートフォリオ、戦略セグメントを明確化して、投資の傾斜配分先を尖鋭化させます。グローバルで競争優位を確立し、世界TOP3を目指す事業として、チョコレート用油脂のCBE、コンパウンドチョコレ

ト、大豆多糖類事業を選定しています。区分に応じて戦略を変え、積極的な新拠点設立、M&Aを実施する一方、構造改革を必要とする基盤事業では、生産拠点統廃合、戦略パートナーの決定、営業戦略の強化に取り組みます。

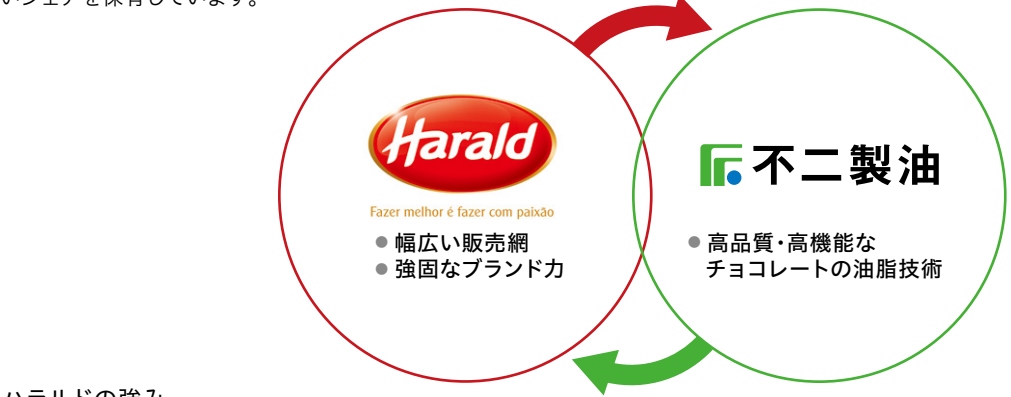
目 標		事 業 セ グ メ ン ト			
		油 脂	チョコレート	乳化・発酵	大豆たん白
重点	グローバルシェアTOP3の確立	CBE ^{※1}	コンパウンド チョコレート		大豆多糖類
拡大	地域優位性の向上	DTR技術 ^{※2} 製品 健康栄養油脂 (育児乳用用途等)		クリーム(海外) マーガリン フィリング	大豆ミート
改革	構造改革による収益性の強化	CBS ^{※1} CBR ^{※1}		クリーム(国内)	粉末状大豆たん白 豆乳 大豆たん白食品
育成	次世代中核事業への育成	多価不飽和脂肪酸 (ω 3 ^{※3} 油脂等)		チーズ風味素材 乳化・発酵	大豆ベブチド USS ^{※4} 製品

※1 CBE/CBS/CBR:チョコレート用油脂
※2 DTR技術:不溶性物質の油脂への分散技術
※3 ω 3(オメガスリー):魚油に含まれているDHAやEPA、えごま油や亜麻仁油に含まれている α -リノレン酸などの脂肪酸の総称
※4 USS:Ultra Soy Separation製法

ブラジル最大手の業務用チョコレート製造企業ハラルドをグループ会社化

ハラルドは多種多様な業務用チョコレート製品の製造・販売を行うブラジル最大手の業務用チョコレート企業です。ブラジル国内のベーカリーショップ約7万店を顧客に持つほか、大手メーカー、チョコレート製品専門店、大手小売店、ホテル・レストラン等の幅広い販売ネットワークに支えられた強固な営業基盤を保有しています。また同社製品ブランドは、業務用市場において、ブラジルの人々に幅広い認知と信頼を得ており、ブラジル国内で高いシェアを保有しています。

当社グループは、2015年6月ハラルドの株式を取得しました。今後著しい成長が見込まれる中南米域内で、同社の強みである強固なブランド力・幅広い販売網と、当社グループのチョコレートの機能を向上させる油脂技術を融合し、ブラジルの業務用チョコレート市場を中心とした中南米戦略を構築し、同地域の発展に貢献すると共に、ハラルドのステークホルダーに対する責務も果たしていきます。



ハラルドの強み

ベーカリー・洋菓子店	製菓メーカー市場
ハラルドの主要市場 ブラジル国内の小売店向けチョコレートシェア1位	ブラジル国内大手製菓メーカーへの主要サプライヤー
家庭用製菓市場	高級チョコレート市場
ハラルド戦略市場 ブラジル家庭用製菓市場向け大手	ブラジル産原料を活用した高級チョコレートに注力



エリア成長戦略の概要

重要戦略エリアとして日本、アジア、中国にブラジルを加えました。日本は利益の中心エリアとして、安定的、継続的に利益を創出するほか、海外エリアへの技術、ビジネスモデル、人材の輸出拠点の役割を担います。アジア、中国は海外展開の中心エリアとしてチョコレート用油脂の拡販、アジアR&Dセンターの活用、インド、タイ、マ

レーシア、中国華南の新拠点による製菓4品*の拡販を進めます。ブラジル市場では、ハラルドの既存事業である業務用チョコレートだけでなく、チョコレート用油脂事業の拡大、乳化・発酵事業の創出を図ります。

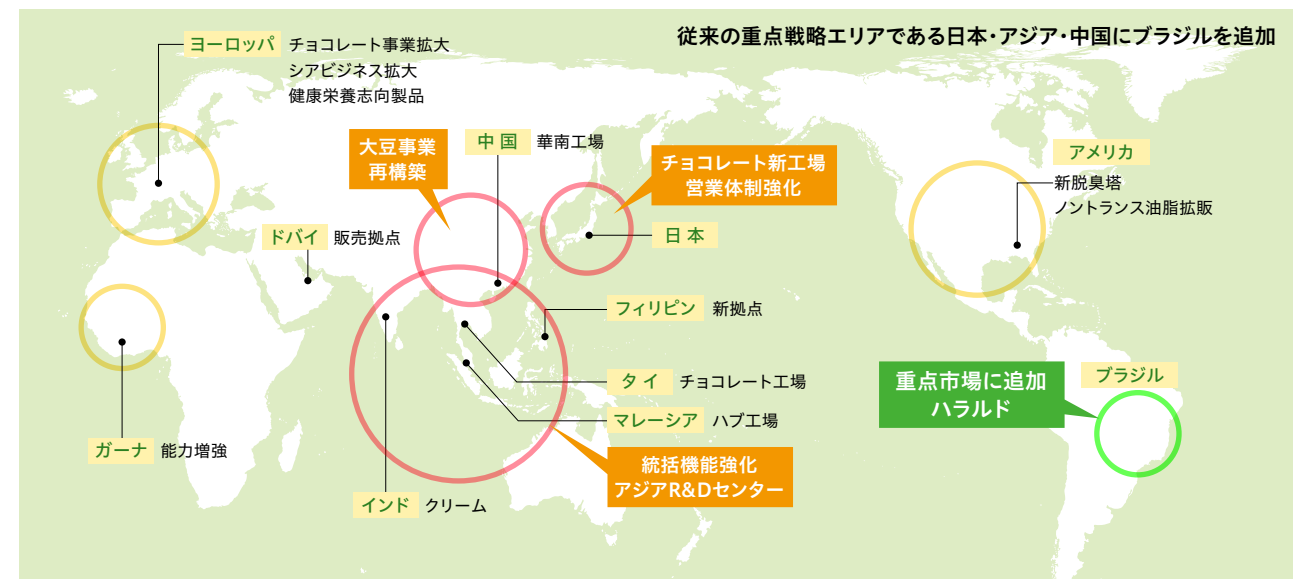
※マーガリン、チョコレート、クリーム、フィリング



不二サイエンスイノベーションセンター
完成予想図(2016年7月竣工予定)



関東チョコレート新工場



アジアR&Dセンター



タイ新拠点



ハラルド

重点戦略エリア	担う役割	主な投資(予定含む)
日本	利益の中心エリアとして、安定的、継続的に利益を創出 海外エリアへの技術、ビジネスモデル、人材の輸出拠点の役割	不二サイエンスイノベーションセンター 関東チョコレート新工場
アジア・中国	海外展開の中心エリアとしてチョコレート用油脂、 製菓4品の拡販	アジアR&Dセンター インド、タイ、マレーシア新拠点 中国華南新拠点
ブラジル	ハラルドの既存事業である業務用チョコレートだけでなく、 チョコレート用油脂事業の拡大、乳化・発酵事業の創出	ハラルド買収

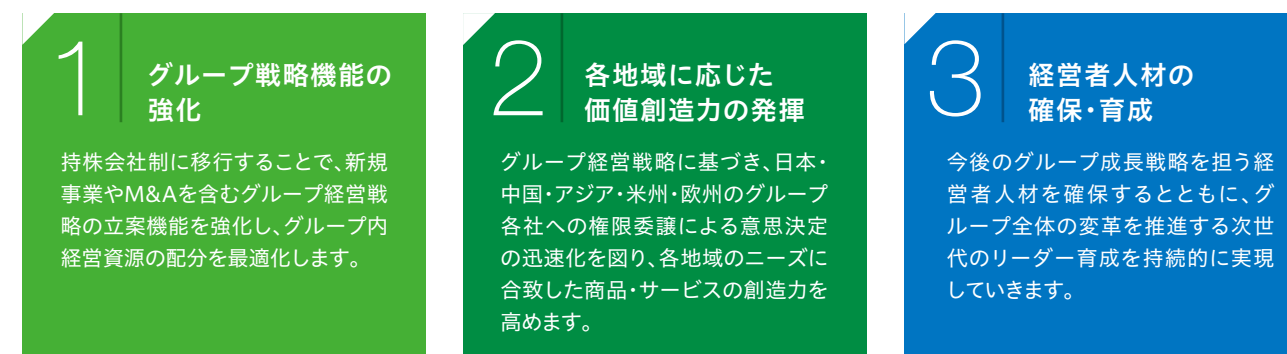
組織戦略の強化

グループ本社制への移行と
地域への権限委譲

不二製油グループは、2030年の「ありたい姿」、2020年の「あるべき姿」の実現に向けて、経営体制を純粋持株会社によるグループ本社

制に移行しました。グループ新体制により、戦略機能を強化し、持続的成長と収益力の向上を図ります。

グループ本社制移行の目的

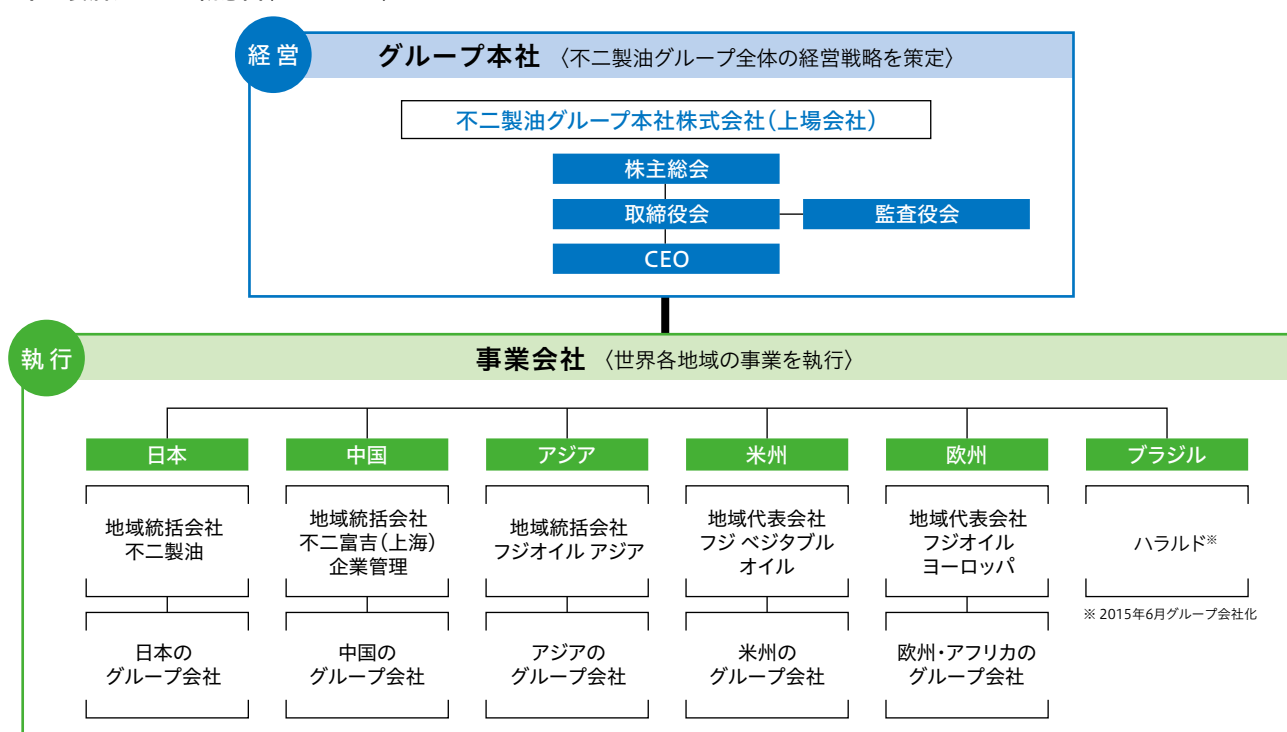


不二製油グループの新組織

新組織では、グループ本社はグループ経営と戦略策定機能に特化します。傘下の地域統括・地域代表会社に事業の推進および権限機能を委譲し、経営と執行を分離することで経営のスピードを更

に高めていきます。また、食文化、慣習、嗜好の異なる各エリア・各国での対応を強化することで、グローバルでの展開を加速していきます。

不二製油グループ概念図(2015.10.1～)



地域統括会社・地域代表会社トップコミットメント

2015年10月1日からのグループ本社制への移行に伴い、それぞれの地域特性を活かした戦略を立案し実行する地域統括会社3社・地域代表会社2社の事業会社制としました。新たに不二製油グループに加わったハラルドを含め、グローバル経営を力強くけん引する6社の代表が抱負を述べます。



エネルギーと水の利用を抑え健康で安全な食品を提供します

ベルギー

ヨーロッパでは、消費者の健康に対する意識が強く、国の基準も厳格に定義されています。また、人権や環境に配慮した製品も一定量の需要があります。フジオイル ヨーロッパでは、上記のような社会的背景のもと、サステナブル調達の実践と、エネルギーおよび水資源の利用を最小限に抑えながら、健康で安全な食品の提供を目指しています。

具体的には、調達に関しては人権や環境に配慮したパーム油サステナブル調達方針を制定し、お客様と共に環境負荷低減に向けて取り組むことを社会に約束しています。その他、従業員が幸せに働くことができる環境の創出にも取り組んでいます。事業拠点のあるアフリカの地域においては、発展途上国での価値創出に貢献したいと考えています。



環境負荷の低減と食の安全・品質を追求します

アメリカ

フジベジタブルオイル
Andrew Bunker

アメリカでは、温暖化対策や省エネ推進が強く打ち出されています。フジベジタブル オイルでは、環境負荷の低減が果たすべき責任だと考え、継続的にエネルギー効率の改善を努めています。具体的には、脱色脱臭プロセスを従来型から省エネルギー型真空発生装置へと転換し、積極的に利用しています。また、保温不良・蒸気漏洩箇所の特定と修繕といった施策により、さらなる蒸気削減に挑みます。

食品の安全性に対する要求が高い地域でもあるため、信頼性のある品質マネジメントが求められています。当社は、食の安全性と品質マネジメントを併せた国際認証規格「SFC」において、まずは2015年度末までの3段階のレベル2取得を目指し、社会の求める食の安全と品質の水準に応えていきます。



ブラジルでの持続的カカオ豆生産に貢献していきます

ブラジル

ハラルドはブラジルにおいて、業務用チョコレートNo.1を誇る企業です。ブラジル企業として、国内産カカオ豆を使った製品開発を通じて、その付加価値を追求し、農家への還元を行うことでブラジルでの持続的カカオ豆生産に貢献していきます。

また、当社の主要市場分野であるホームベーカリー市

場の商品開発および新製品を提供することで、主婦が自宅で菓子生産および販売事業を行うことを支援します。さらには地域社会の子どもたちへの教育やスポーツ活動支援を通して、地域社会の教育にも取り組んでいます。



「おいしさで中国社会に貢献する」が経営理念です

中国

「おいしさ」の面では、食の多様化の進行により、チョコレートを含む、パン・洋菓子の消費が加速しており、GDPをはるかに上回る10%以上の伸び率で拡大しています。当社は、油脂・食品の供給を通じて、中国のおいしいパン・洋菓子の普及に貢献していきます。

「健康」の面では、所得の急増、同時に、食の安全性への

懸念から、健康食品への需要が日本以上に高まっています。一方、2050年には4億人となる高齢者の食事、病院食の整備といった分野は、今後成長が見込めます。当社は、大豆たん白と大豆食品の供給を通じて、中国の人々の健康維持増強に貢献していきます。



「ルネサンス不二2017」を推進し、社会貢献を発展させます

日本

社会に貢献することこそ、企業存続の鍵であると考えています。私達の社業（植物資源を主原料にした食品製造・販売）そのものを、より進化発展させることで、社会への貢献を高めます。日本国内の社会変化に即して、特に以下の活動に重点を置きます。

- 1.生活習慣病の予防：減塩効果のある油脂、高齢者に適したたん白素材の提供
- 2.和食の世界普及や乳資源の不足：USS製法等による新大豆素材の提供
- 3.海外からの観光客の増加：ニーズに合ったおいしいチョコレート、マーガリンの提供。
- また人材に関しては、4.女性活躍の場の拡大：生産職場での女性採用の更なる推進
- 5.不二製油グループのグローバル化の加速：海外で活躍できる人材の育成と育成基盤の強化を行います。



現地ならではのおいしさを追求しアジアの「Talent Bank」を目指します

シンガポール

9社を傘下を持つ当社は、ASEAN10カ国、東アジアおよび中東を中心とした販売エリアと同時に不二製油グループのサプライチェーンマネジメント供給基地としての責任を持っています。不二製油グループの持つ技術や製品をアジアの人々にも提供し、より現地に根差した会社へと進化させるべく、2015年3月、研究開発拠点「アジアR&Dセンター」を設立しました。本拠点は、現地ならではの「おい

さ」を追求する製品開発機能に加え、アジアの人々が製品知識や技術などを学ぶ人材育成の機能を大幅に強化し、アジアの「Talent Bank」となることを目指します。

アジアは今後中間所得層がますます増加し、さらに発展する地域です。私たちはこの伸びゆくアジアで人材育成を通じて貢献することでサステナブル経営を推進していきます。

〔事業会社一覧〕

グループ会社一覧

■油脂 ■製菓・製パン素材 ■大豆たん白

日本	
不二製油株式会社	統括 開発 生産 販売
グループ会社	
トーラク株式会社	生産 販売
フジフレッシュファーズ株式会社	生産 販売
株式会社フジサニーフーズ	販売
株式会社エフアンドエフ	生産
オーム乳業株式会社	生産 販売
株式会社阪南タンクターミナル	保管・配送
千葉ベグオイルタンクターミナル株式会社	保管・配送

中国	
不二富吉(上海)企業管理	統括
不二製油(張家港)	生産 販売
吉林不二蛋白	生産
不二富吉(北京)科技	販売
山東龍藤不二食品	生産
天津不二蛋白	生産
上海旭洋綠色食品	生産 販売
アジア	
シンガポール	
フジオイル アジア	統括 開発 販売
フジオイル(シンガポール)	生産
ウッドランド サニーフーズ	生産
マレーシア	
バルマジュ エディブルオイル	生産

タイ	
フジオイル(タイランド)	生産 販売
フレイアパディ(タイランド)	生産 販売
フィリピン	
フジオイル フィリピン	販売

インドネシア	
フレイアパディ インドタマ	生産 販売
ムシム マス・フジ	生産 販売
インド	
3F フジフーズ	生産 販売

米州	
アメリカ	
フジベジタブルオイル	生産 販売
ブラジル	
ハラルド	開発 生産 販売
フジオイル サウスアメリカ	販売

欧州(アフリカ)	
ベルギー	
フジオイル ヨーロッパ	生産 販売
ガーナ	
インターナショナル オイルズ	生産
アンド ファッツ	生産



サステナブル経営の実践～6つの重点テーマ～

食の創造（健康・栄養・食資源）

世界人口の増加に伴う食資源の不足、高齢化や栄養不足と栄養過剰、新興国の食生活の変化など、「食」に求められるニーズは地球規模で変化しています。不二製油グループは、その課題に向き合い、健康・栄養・食資源などの分野で「新しい価値」を創出して世界に貢献しています。

2014年度目標・実績および中期目標				
【自己評価基準】○ 達成 △ 達成できなかったが目標に近づいた × 達成にむけた改善ができなかった				
項目	2014年度目標	2014年度実績	2014年度評価	2017年度目標
大豆ルネサンスUSS	ことづくりの推進のために、BtoBforCを意識したマーケティングを実施する。	大豆ルネサンス推進を目的に、「まめプラス推進委員会」の立ち上げや、消費者の方々とのコミュニケーションの場として、二度のまめプラスカフェの出店や女子会等を実施した。	△	各種イベントやまめプラス推進委員会を通して、国内での大豆ルネサンスの更なる推進に加え、USS製品の海外での普及を図り、大豆事業における柱へと醸成する。 2014年度時点での到達度 30%
北海道大豆×USS	北海道産大豆を使用した製品化を目指し、場所の選定、および大豆作付けを実施する。	北海道産大豆の作付けを実施。最終製品化への道筋を作った。	○	北海道産大豆をブランド化し、お客様と協働にて最終製品として継続的に販売する。 2014年度時点での到達度 20%
減塩への貢献	国内における、呈味増強油脂（P17参照）による減塩の有効性への理解促進、より多くのお客様へ供給する。	塩味増強の効果は認識いただいたが、単独での使用においては、味のバランスが変わる点や減塩目標に対する到達度が少し不十分との課題が判明した。	△	改良による塩味強度上昇を図り、ターゲットをシニア市場に絞り込んだプレゼン、拡販を展開する。 2014年度時点での到達度 70%
低・ノントランス酸	各国における低およびノントランス酸対応を実施する。	各国における低およびノントランス酸対応を実施した。	○	FDA(Food and Drug Administration:アメリカ食品医薬品局)による規制強化に対応した低減策を、顧客の要請に基づいて検討する。 2014年度時点での到達度 80%
ベジタブルチーズ素材	動物由来原料不使用クリームタイプ新製品の研究開発を行う。	「チーズのような豆乳クリーム 大豆舞珠（まめまーじゅ）」が完成した。	○	成形タイプ、新食感タイプの開発と市場創造を実現する。 2014年度時点での到達度 20%

大豆の高付加価値商品で世界に貢献

健康 栄養 食資源 グローバル

【世界の課題】人口増に伴う食肉需給のひっ迫

ミラノ万博日本館での紹介と日・伊食文化交流

2015年5月に開幕したミラノ国際博覧会では、当社グループのUSS（Ultra Soy Separation）製法が紹介されました。「地球に食料を、生命にエネルギーを」をテーマに、世界中が取り組むべき飢餓問題や食料問題を取り上げた初の万博です。日本館において大豆をおいしく食べる世界的に有効な技術として取り上げられました。

大豆は日本の食文化を担ってきました。また、次世代へ持続的に多様な食を提供する力があります。ミラノ万博日本館で紹介したことを機に、イタリアでは料理学校や大学で豆乳を使った料理コンテストを、日本では新感覚イタリアン「Soy-Italian:ソイイタリアン」を展開しています。



日・伊食文化交流プロジェクト記者発表会にて（2015年5月19日、イタリア大使館）



ミラノ万博ジャパンデーのレセプションなどで紹介されているソイイタリアン「きな粉のソイティラミス」（左）と「TO-FUケーキ」

プレミアム豆乳で世界へ

アメリカでは、トップシェフがUSS製法により生まれたプレミアム豆乳を採用し、料理に使用いただいています。和食はもとより、フレンチやイタリアン、中華などさまざまな分野でおいしさが認められ、利用が拡大しています。

またアジアでは、タイを皮切りに、現地で「まめプラスカフェバンコク」を現地企業と共に開設し、2000店規模といわれる日本食レストランへの供給もスタートしています。

今後USS製法の豆乳を世界に供給するため、大豆の確保と現地生産を視野に活動していきます。



ニューヨークのシェフによる「濃久里夢のカスタード〜根菜とマッシュルームのせ」

消費者とのコミュニケーション

まめプラス推進委員会※が開催したまめプラスカフェや料理店でのメニュー提供だけにとどまらず、一般の方々にプレミアム豆乳やおいしい大豆の食品を知ってもらうために、「女子会」を定期的に開催しています。



まめプラスの食生活の楽しさを知っていただく女子会

具体的には、季節や催事に合わせて「お鍋女子会」「代謝UPエクササイズ女子会」など、新しい豆乳メニューを講師と一緒に作り、好評いただいています。このような消費者とのコミュニケーションの場を今後も拡大していきます。

さらに、この豆乳の魅力をもっと知っていただけるよう、YouTubeでは食レボ動画「まめまめ探検隊」を配信、TOKYO MXでは食レボ連続ドラマ「泣きめし今日子」を放映しています。

※ まめプラス推進委員会のサイト
URL: <https://www.atpress.ne.jp/news/49856>

USS製法に使用する大豆の一部国産化を推進（北海道）

大豆は、植物としてはたん白質を豊富に含み、また水やエネルギー資源の利用効率も優れています。しかし昨今では、日本の大豆農家の減少が深刻な課題となっています。また、大豆の自給率は6%（2013年農林水産省ホームページより）と低いのが現状です。これらの社会的な課題解決に貢献するため、当社は原料大豆の一部国産化を進めています。特にUSS製品に使用する大豆に関して、北海道の大豆農家と契約し、2015年度は一部のお客様への採用が決定しています。今後の需要も見込めることから、さらに国産大豆の普及に取り組みます。

次世代育成、食育の観点からも、大豆栽培の現場を子どもたちに広く知ってもらうため、体験型ファームステイなどの検討を始めていきます。



北海道契約大豆農家と

大豆本来のおいしさを引き出すUSS製法

USS製法により生まれたプレミアム豆乳、「豆乳クリーム」と「低脂肪豆乳」は、大豆本来のおいしさを引き出した、まったく新しい豆乳として、料理業界やスイーツの世界で利用が拡大しています。

USS製法は生乳の遠心分離に似た独自の特許製法で、2つの豆乳に分けることにより、乳製品のような加工品も製造することができます。すでにホイップクリームやマヨネーズタイプのドレッシング、チーズのような豆乳クリームなどの加工品を開発し、健康・栄養の需要に対応できる食品として、食品業界で高い評価をいただいています。

プレミアム豆乳を生み出すUSS製法のしくみ



左から、USS製法を用いて作った豆乳クリーム、豆乳加工食品、低脂肪豆乳

呈味増強技術・製品が世界で貢献

健康 栄養 グローバル

【世界の課題】塩分の過剰摂取による健康問題

減塩できる食材への取り組み

不二製油(日本)では、少ない塩分や調味料でも塩味、辛味、酸味等が強く感じられる「呈味増強油脂(DTR技術)」を開発。無理なく、おいしく減塩できる食品素材を、すでにお客様にご利用いただいています。この特徴を活かして、日本では給食、健康な高齢者食、比較的食塩の多い食品などへの用途開発を進めています。さらに今後は、「抗酸化」を切り口に、酸化安定性が向上した機能性油脂製品の開発を行い、消費者の生活の質向上に食を通して貢献できる取り組みます。



呈味増強油脂を使用したカレーライス

アジアにおける今後の展開

フジオイル(タイランド)では既にこの呈味増強油脂を製造する設備を導入し、生産を開始しています。特にフライ油用途では、保存期間の延長や呈味の増強に貢献しています。

2014年からは本技術をスプレー用途や健康油脂へも展開中です。2015年はさらに食事シーンを意識した製品開発を進めていく予定で、DTR技術はその一翼を担える技術と考えています。

低・ノントランス酸への対応

健康 栄養 グローバル

【世界の課題】トランス脂肪酸による健康問題

油脂の硬さや融点を調整し、機能性を付与するため、水素添加を行う油脂の加工技術が使われています。この水素添加によって生成されるのが「トランス脂肪酸」です。2015年6月、米国・食品医薬品局(FDA)が部分水素添加油脂(PHOs)を一般に安全であると認められる物質(GRAS)としては認めないと最終決定しました。

フジ ベジタブル オイル(アメリカ)を始め、当社グループは、2006年以降各国のトランス脂肪酸表示義務化に伴いお客様

のご要望に対応できるよう、低トランス脂肪酸の製品へと移行を進めてきました。

今後は、特にアメリカ市場において、従来の加工食品に加え、外食市場にPHOsを使用しないノントランス酸の製品を提供していきたいと考えています。

USS製法で作ったチーズ風味素材の開発

食資源 日本

【世界の課題】人口増に伴う食資源の不足

現在、世界人口は70億人を超え、2062年には100億人を超えると言われており、私たちがこのままの生活を続けていると、近い将来、食糧不足に陥る危険性が示唆されています。この世界的な人口増大に備えて、よりエネルギー効率のよい植物原料を主体とした食糧への転換が必要になると考えられます。

当社(日本)ではこれまでも植物原料を利用した機能性チーズ風味素材を開発・販売していますが、昨今の食資源の状況を鑑み、動物由来原料不使用のチーズ風味素材を研究開発してきました。結果、世界初のUSS製法で作られた低脂肪豆乳を主原料にした、「チーズのような豆乳クリーム 大豆舞珠(まめまーじゅ)」が完成しました。本製品は動物由来原料を一切使用せず、芳醇な発酵風味でコクのある素材になっており、調理から製菓・製パンといった幅広い用途にご使用いただけます。

今後も、世界の食資源・環境問題に貢献するため、おいしいチーズ風味素材の開発・販売に努めます。



大豆舞珠を使用したティラミス

中国における健康への貢献

健康 栄養 グローバル

【中国の課題】食の安全・安心、健康志向

粉末状大豆たん白

中国では食品業界での偽装・衛生管理問題を受け、消費者の健康、安全・安心に対する関心は年々高まりつつあります。元来、健康に対する認識が高い国民性であり、一部の富

裕層に対する健康食品市場は年々成長しています。

もともと豆乳・豆腐を好んで嗜好する地域性から、吉林不二蛋白(中国)製品「粉末状大豆たん白」を主原料とした粉末健康飲料・プロテインパウダーは2014年も需要が増大しました。

今後も広くお客様に貢献する企業として、粉末状大豆たん白の需要を高めていきます。

大豆ペプチド

中国では日本と同様、ライフスタイルの多様化や高齢化が年々進んでおり、健康への関心の高まり、高齢者栄養の問題などがさらにクローズアップされることが予測されます。また、スポーツ関連食品・ダイエット食品・美容食品・高栄養食品など、手軽に摂取できて健康的な生活に貢献できるような食品の需要が高まっています。

不二富吉(北京)科技(中国)では2014年から、栄養健康市場に向けて、運動時の疲労回復・脂肪燃焼・美肌・脳機能改善など、さまざまな効果が判明している「大豆ペプチド」を提供し、消費者の健康に貢献しています。

今後は、若い世代や高齢者に対象を広げ、さらに役立てて



粉末状大豆たん白

TOPICS

野菜と豆乳の спреッドがFOODEX美食女子「ママの愛グランプリ」銀賞受賞 日本

不二製油(日本)において2014年1月に発足した「ワーキングマザーの視点を活かした新市場開拓プロジェクト」では、ワーキングマザーたちが「忙しくても子どもたちによいものを食べて元気に成長して欲しい」という強い想いを込めて、当社の技術を昇華させた製品開発をしています。

2015年3月開催のFOODEX美食女子「ママの愛グランプリ2015」で、ワーキングマザープロジェクトが開発した、USS製法で作った低脂肪豆乳と国産野菜を合わせた「野菜と豆乳の спреッド」が「子どもたちに簡単においしく野菜を食べてもらえる」として評価を受け、銀賞を受賞しました。本コンテストは、小学生以下の子どもを持つ女性約20名と子どもたちが審査員となって実施されました。本プロジェクトに関しては、お客様

いきたいと考えています。

高齢者への貢献

健康 栄養 日本

【日本の課題】2030年に人口の1/3が高齢者

濃厚流動食

濃厚流動食[※]で使用するたん白素材は、栄養面(アミノ酸バランスに優れること)、物性面(加熱殺菌しても安定していること等)が求められ、乳たん白素材、中でもカゼイン(牛乳中の主要なたん白)が最適素材として広く利用されています。また、濃厚流動食は育児粉乳等と同様に、供給メーカーは災害時でも安定的に供給する必要がある製品です。

当社(日本)では2014年、大豆たん白の物性面での課題をクリアできる新技術を開発。大豆たん白素材のみでも濃厚流動食を調製できるようになりました。これにより濃厚流動食におけるたん白源の選択肢が、乳だけであったのを、大豆にまで広げることができました。

当社(日本)は、今後も有用な大豆たん白素材の開発・供給を通じて、濃厚流動食の必須原料であるたん白源を供給し続けていきたいと考えています。

※濃厚流動食:病気治療中や要介護状態の患者が、通常の食事摂取に困難を伴うことから経口摂取が不十分な場合に、食事代替として当該品のみを使用して栄養管理をしていただくことも想定して、必要なエネルギーを含め、栄養素のバランスや性状(流動性)を考慮した加工食品である。(日本流動食協会)

から「ワーキングマザーへの貢献」という点で共感をいただいており、「共創」の関係づくりのきっかけになっています。



グランプリでの授賞式の様子

※ワーキングマザープロジェクトの発案で実施している「食育活動」については、35ページに掲載しています。



サステナブル経営の実践～6つの重点テーマ～

食の安全・安心・品質

不二製油グループでは、1996年に品質方針を制定[※]し、各種認証取得に取り組んできました。さらに、品質方針を実践する上で守るべき内容を具体化した「品質指針」を定め、安全・安心でお客様に満足いただける製品づくりに取り組んでいます。

※「不二製油グループ 安全品質環境 基本方針」として、2014年5月1日に改めて制定

2014年度目標・実績および中期目標				
【自己評価基準】○ 達成 △ 達成できなかったが目標に近づいた × 達成にむけた改善ができなかった				
項 目	2014年度目標	2014年度実績	2014年度評価	2017年度目標
安全・安心の確保に向けて／お客様視点による品質保証体制	1.品質インスペクション(検査)により品質リスクを低減する。 2.新規品質情報システムの導入と構築を行う。 3.ISO9001拡大、FSSC22000認証への取り組みを開始する。	1.フードディフェンスを考慮したチェック項目追加し、食品安全レベルを高めたインスペクションを実施。海外ではフジベジタブル オイル(アメリカ)を新たにインスペクション対象に追加して実施した。 2.水銀分析系を確立し、原材料の水銀リスクアセスメントを実施した。 3.フジフレッシュフーズ(日本)認証拡大完了。FSSC認証の取得に向け活動を開始した。	○	1.グループ品質保証規定を策定し浸透を図る。 2.品質保証情報ネットワークを構築する。

新規目標

お客様視点による品質保証体制

当社グループでは、原料調達から生産・出荷までの各工程において、製品や製造プロセスが当社の規格・基準をクリアしているかをチェックする体制を構築しています。また、法令を順守しているか、「お客様視点で高品質な製品であるか」を検証する独立組織を設置し、横断的に製品・製造プロセスを検証しています。

不二製油グループ 安全品質環境 基本方針	
安全衛生基本方針	1. 命の尊さを安全の基本とする。 2. 全員参加を安全の基礎とする。 3. 安全管理は職制の責任である。 4. 安全は誰やかな身体から生まれる。 5. 安全な職場づくりをする。 6. 危険を知り、危険を防ぐ。
品質基本方針	1. 法およびその精神を順守し、安全・安心な商品をお客様にお届けする。 2. 創造的な商品を開発し、タイムリーにお客様にお届けする。 3. 顧客満足度の向上に努める。 4. 真意の伝わるコミュニケーションで、問題の解決に努める。
環境基本方針	1. 環境保全活動の継続的な改善に努める。 2. 環境関連の法およびその精神を順守する。 3. 環境に配慮した製品開発・技術開発に努める。 4. 社会とのコミュニケーションに努める。
制定:2014年 5月 1日	
不二製油株式会社 代表取締役社長 清水 洋史	

自社工場や委託先には、原則毎年品質インスペクションを実施し、生産管理の状況などを監査しています。また、月に1度「安全・品質・環境会議」を開催し、問題点や課題とその対策を報告し、情報を共有することで、問題の再発防止に向けた横展開を図っています。

海外拠点では、国内同様、品質に関わる外部認証を取得するとともに、2年に一度品質インスペクションを実施して、国内拠点と同等レベルの管理体制を保証しています。

2014年度は、不二製油(日本)および国内グループ会社32カ所、国内委託先32カ所、海外グループ会社10カ所、購入会社等10カ所で品質インスペクションを実施しました。

国際的品質マネジメント認証の活用

当社グループは、お客様に満足いただける、より信頼性の高い品質マネジメントを実現するため、国際的な品質マネジメント認証の取得を積極的に推進しています。

さらに近年、フードディフェンスの必要性が認識されるようになってきたことから、2012年度からは国内外の品質インスペクションの中で、GFSI[※]承認規格の適合レベルを確認し、海外グループ会社で先行して認証取得を進めています。

※ GFSI:2000年に設立された非営利組織で、国際的な食品安全の確保・向上を目的に、同団体の求める水準を指針として公表し、世界各国の著名な食品安全マネジメントシステム規格を比較検討して、適合する規格を承認している。

主な品質マネジメント認証の取得状況

HACCP [※] またはISO22000認証	海外グループ会社 10社
ISO9001認証	不二製油(株) 国内13拠点 国内グループ会社 4社 海外グループ会社 8社
GFSI承認規格(FSSC)	海外グループ会社 6社

※ HACCP:食品に関する高度な安全性(衛生)管理システム。

フードディフェンス対応策 およびFSSC22000認証取得

2008年に中国で発生した冷凍餃子事件以降、当社グループもフードディフェンス取り組み強化の必要性を強く認識しました。当社(日本)では薬品や潤滑油等の施錠管理、出入口の施錠管理強化やユニホームポケットを無くす等の対策を講じました。また、生産エリアの重点ポイントについては監視カメラの設置を順次進めています。

さらに、HACCP管理の強化によって、異物混入や微生物発生抑制とともに、フードディフェンスに対する目に見える取り組みとして、GFSI承認規格の一つである食品安全マネジメントシステムFSSC22000の認証取得活動を開始しています。当社(日本)ではまず冷凍食品関連およびチョコレート各工場の優先して認証取得し、その後他工場に拡大する予定です。

アメリカにおける対応事例

フジベジタブル オイル(アメリカ)では、フードディフェンス対応の一環として、設備の充実を図っています。具体的には、事業所内のタンクを順次レーザー測量式に更新し、少量のサンプルはバルブより採取できるよう変更して、タンク開閉を制限することで異物混入リスクを低減しています。その他、屋外作業となっていたフィルター交換エリアにも異物混入防止のため、新たに屋根を設置しました。人が介入するほとんどの作業工程にカメラ・録画システムを導入し、外部不審者からの防犯と作業員の安全確認を行うと共に、お客様の求める品質の確保に努めています。



タンクに設置したバルブ

Halal(ハラール)、Kosher(コーシャ)対応

グローバル展開を目指す当社グループは、より競争力のある会社となるため、社会環境の変化に敏感に対応しています。世界中にはさまざまな人種と宗教を持つ人々がいる中、企業にはそれらの人々が大切にしている食生活の文化や多様性に十分配慮した対応が求められます。

当社グループでは、イスラム教やユダヤ教の食事規則に準じた原材料を使用し、かつ適合した食品製造を証明するためのHalal認証、Kosher認証取得を推進しており、アメリカ、中国、インドネシア等で積極的に取得を進めています。

今後もさまざまな宗教の人々に安全・健康でおいしい食品を提供できる体制を整備していきます。

アジアにおける対応事例

アジア市場は、Halal認証を取得した原材料を使用した製品であることが大半であり、お客様に満足いただける品質設計を常に行っています。さらにベジタリアン向けの製品開発、応用開発も今後一層強化する方向です。

フレシアバディ インドタマ(インドネシア)は、2011年以降工場全体で、Halal保証システム(Sistem Jaminan HALAL)認証をA級評価で取得しており、今後も取得継続に向けて取り組みます。また、ユダヤ教の人々のチョコレートニーズに対応するため、全原料でのKosher認証取得に向け、サプライヤーの協力を得て、現在も鋭意準備を進めています。

Halal(ハラール)、Kosher(コーシャ)認証の取得状況

Halal(ハラール)認証	海外グループ会社 12社
Kosher(コーシャ)認証	海外グループ会社 9社

(注)個別の商品についてHalal、Kosher認証の有無をご確認されたい場合は、各グループ会社にお問い合わせください。



サステナブル経営の実践～6つの重点テーマ～

サステナブル調達

生産方法、労働環境、人権および地球環境に配慮した持続可能な方法で生産された原料の安定的な調達に努め、トレーサビリティ[※]への取り組みを行っています。その基盤の上で持続可能な製品を企画・開発・生産し、お客様・消費者の皆様はその価値をお伝えする、このような経営をグローバルで推進するため、幅広い分野のステークホルダーとの間で対話と連携を重ねています。

※ トレーサビリティ：食品の安全確保のため、生産履歴や流通経路を明らかにすること。その仕組み。

2014年度目標・実績および中期目標				
【自己評価基準】○ 達成 △ 達成できなかったが目標に近づいた × 達成にむけた改善ができなかった				
項目	2014年度目標	2014年度実績	2014年度評価	2017年度目標
持続可能な調達のために	CSR調達ガイドラインのための2回目のアンケートを実施する。	CSR調達ガイドライン改訂のための協議に留まった。	△	CSR調達ガイドラインを見直し、アンケートを実施する。(2回目2015年、3回目2017年) 2014年度時点での到達度 20%
持続可能なパーム油調達	1. サステナブル油脂：RSPO認証油およびトレーサビリティの要求に応え得る油脂を提供する。 2. パーム農園における地域貢献活動の実施に向けた、現地視察を行う。	1. フジオイルヨーロッパでのRSPO認証油(SG)完全切替を実施した。 ●日本の工場(阪南・千葉)でのRSPO-SCCSを取得した。 ●認証パーム油購入を開始した。(日本) ●トレーサブル(TFT)油脂を継続して納入した。 2. 顧客と共に農園視察(CSR活動)を実施した。	△	1. ●サステナブルパーム油調達方針を策定する。 ●お客様のニーズに対応した認証油調達を計画し、実施する。 2. パーム農園の地域貢献活動を開始する。 2014年度時点での到達度 60%
持続可能なカカオ豆、およびココア製品調達	1. トレーサブルカカオ豆の継続購入および、プレミアム価格での社会貢献活動を実施する。 2. UTZココアバター購入を開始する。	1. トレーサブルカカオ豆の購入量を増加した。また、社会貢献活動ではガーナで井戸を完成した。 2. UTZココアバターの発注を開始した。(購入／入庫は2015年度から)	○	トレーサブルカカオ豆の購入量を増やし、購入代金の一部を利用して社会貢献活動を実施する。UTZ製品は、顧客の要請に応じて継続的に購入する。 2014年度時点での到達度 70%

基本的な考え方

原材料は高品質で安全なものであること、競争力のある価格であることと同様に、お客様への供給責任を果たすためにも、安定的で持続可能な調達が可能であることが重要です。サステナブルな調達を実践するため、不二製油グループでは2012年「CSR調達ガイドライン」を制定し、取引先と連携してより公平・公正な取引に努めています。

当社グループの基幹原料であるパーム、カカオ豆、大豆などについては、限りある資源であることを十分に認識して事業を推進しています。原産地や製造工場を視察し、使用基準に合致しているか、安全性や品質管理体制を確認しながら、サプライヤーとの関係強化を図り、持続的・安定的な調達が可能な調達を推進するとともに、不測の事態に備え、原材料の複数購買化を推進しています。

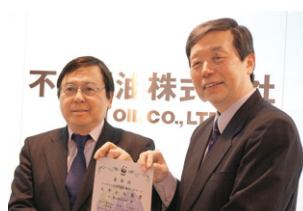
TOPICS

WWFジャパン「ビジネスと生物多様性 勝手にアワード」で特別賞(受賞名:火中から栗賞)を受賞

不二製油グループは、WWFジャパン(公益財団法人世界自然保護基金ジャパン)が選出する「ビジネスと生物多様性 勝手にアワード」で特別賞を受賞しました。同アワードは、WWFジャパンが2013年12月～2014年11月の期間に、東証一部上場企業1818社が発表したCSRレポート・環境報告書類を査読し、生物多様性を事業活動として位置づけ、取り組みを行っている企業を評価、表彰するものです。

当社グループは原料調達をCSR活動の重点テーマの一つとして取り組んでおり、「不二製油グループ サステナビリティレ

ポート2014」(2014年9月発行)では、パーム油の調達について地球環境の配慮を行い、持続可能な社会の実現に向けての取り組みや外部有識者を交えたダイアログの実施などを記載し、情報提供に努めました。今回の受賞では、世界的に問題となっている環境課題について積極的に情報開示し、問題の可視化に貢献している点が評価されました。



パーム油

持続可能な調達を目指したサプライチェーン構築

RSPO認証製品への対応

当社グループでは、地球環境に配慮し、パーム油を将来にわたり長く使用するため、RSPO(持続可能なパーム油のための円卓会議)に2004年より加盟しています。

近年、お客様からのRSPO認証製品への要望の高まりを受け、中国の不二製油(張家港)は、2011年12月、RSPO認定(SG^{※1}/MB^{※2}など)を取得、一部のお客様に認証油を使用いただいており、今後は認証油の需要の高まりに積極的に対応していきます。

フジベジタブルオイル(アメリカ)では、2014年より既存のサプライチェーンに加え、新たなRSPO認証原料の購入先と取引を開始しています。

パーム油の消費量が増加傾向にあるアメリカ市場でも食品メーカーのRSPO認証製品に対する要望は拡大しており、トレーサブルなサプライチェーンの確立に努めています。

不二製油(日本)では2014年8月に油脂事業部(タンクヤード、油脂工場)でSG・MBを取得しました。

※1 SG：複数の認証農園からの認証油が、最終利用者に至るまで非認証油と混合することなく取引されること。

※2 MB：管理・流通の中で非認証油との混合が認められる油のこと。

ヨーロッパにおける取り組み事例

フジオイル ヨーロッパ(ベルギー)は、2010年よりRSPOの指針や基準の全てを満たしており、2013年よりパーム油分別工程は完全にSG対応をしています。

特に近年は市場の変化により、当社グループのお客様からRSPO認証品の要望が増しており、製品の価値向上につながっています。今後は、適切な価格で認証品を提供することが

RSPO(持続可能なパーム油のための円卓会議)

Roundtable on Sustainable Palm Oilの略称。パーム油生産業、搾油・貿易業、消費者製品製造業、小売業、銀行・投資会社、環境NGO、社会・開発系NGOの協力のもとで運営されている非営利組織。

RSPOのサプライチェーン認証(SCC)

SCCはSupply Chain Certificateの略語。持続可能な栽培の基準を満たした農園産のパームヤシを原料とする製品を生産・販売し、消費者まで届けるサプライチェーンシステムが構築されていることを認めるもの。



重要と考えています。

アジアにおける取り組み事例

フジオイル アジア(シンガポール)ではパーム農園を起源とする持続可能な対応について、RSPOへの参加や小規模農園支援プロジェクトの計画などを中心に、関係団体との協議、認証油の原料購入を推進しています。2014年には、日本国内のお客様数社とともにサプライヤーによるパーム農園でのCSR活動を視察し、支援のあり方について共に検討しています。

特に、サプライヤーと協議、協力しながらトレーサブルパームオイルのサプライチェーン構築に注力しています。2015年第1期を終えた段階では、精製工場のトレーサビリティは100%完了、農園まで遡ったトレーサビリティは90%を超えています。今後、トレーサビリティ100%の早期実現を目指し、持続可能な社会の実現に向けて取り組んでいきます。



2014年度に実施した現地視察

シア

Global Shea Alliance(GSA)への加盟

フジオイル ヨーロッパ(ベルギー)では2013年、インターナショナルオイルズアンドファッツ(ガーナ、以下IOF)を通してシアビジネスに参入し、シアの需要に応じて調達を始めています。IOFは2014年、ガーナシア組織団体GSA[※]に加盟しました。現在、GSAの指針やガイドラインに沿ってサステナブル調達方針の構築・実行をするため、2015年収穫のシアに独自の調達ガイドラインを構築することを目指しています。2016年は具体的な数字目標を掲げ、2017年までに持続可能なシアのサプライチェーン認証取得を進めています。



※ GSA：シア脂(西アフリカで産出されシアからとれる植物性油脂)のバリューチェーンに携わるあらゆるステークホルダーによる同盟。シア産業の振興とアフリカ農村域の女性とコミュニティの生活水準の向上を使命としている。

カカオ豆

トレーサビリティへの取り組み

不二製油グループでは、サステナブル調達の一環としてトレーサブルカカオ豆の購入を開始しています。トレーサブルカカオ豆は、生産地域や流通経路が特定できるだけでなく、購入代金の一部が生産地でのインフラ整備や教育の質の向上などに役立てられます。この数年で購入量は増加しており、今後も購入数量を拡大していく計画です。

このほか、フジオイル ヨーロッパ(ベルギー)ではフェアトレードの認証を取得し、お客様のご要望に応じてフェアトレード認証の原料を使用した製品を生産・販売しています。



購入代金の一部で井戸の建設を実施

2014年には、カカオ豆購入代金の一部を利用し、アフリカ・ガーナの当社グループの契約地域に二つの井戸を建設



建設した井戸(アフリカ・ガーナ)

しました。

コミュニティの人々は清潔な飲料水へのアクセスが悪く、生活用水は汚染された池や河川の水に頼っています。健康面への悪影響があるばかりでなく、女性は遠くまで水を集めに行くことで学校教育を受ける機会を失う事態も発生するなど、飲料水の確保は現地の人々に重要な問題であり、新しく建設された井戸がコミュニティの生活水準向上に役立てられることを願っています。

今後もカカオ豆の購入を通じ、生産者をサポートしていきたいと考えています。

世界カカオ財団への加盟

世界カカオ財団(World Cocoa Foundation)による、農家への技術提供などによって持続可能なカカオ経済の進展を目指す活動に賛同し、当社は2012年に同財団に加盟しました。この活動の基本的な考え方は、同財団の「サステナビリティ3原則^{※1}」に集約されています。



UTZ認証^{※2}カカオ豆の調達

当社グループでは、サステナビリティへの実現に向けて、UTZ認証を不二製油関東工場、フジオイル ヨーロッパおよびウッドランド サニーフーズ(シンガポール)で取得しています。今後も需要に応じて対応していきます。



※1サステナビリティ3原則、※2UTZ認証については、Webサイトを御覧ください
URL: <http://www.fujiolholdings.com/approach/sustainable.html>

ステークホルダーからのコメント

業務用チョコレート「フロルデカカオトゥマコ」のカカオ豆調達に関わる小方氏より



コロンビア南西に位置する港町「トゥマコ(TUMACO)」を支える基幹産業の一つはカカオ豆です。この地で昔から栽培されているローカル・カカオ豆でチョコレートを作った私は、秘められていたポテンシャルにとっても驚きました。「これはきちんと開発して品質を上げれば、もっとおいしいものが作れるし、その品質に別の価値を払うことができるはず」と考え、CACAO DE COLOMBIAのチームとともに、カカオ豆生産の技術指導、収穫したカカオ豆を少しでも早く現金化するためのクレジット援助、評価の共有、味覚教育など、安心して、そして自信と誇りを持ってカカオ豆生産に臨めるよう、取り組み始めました。

おいしさは、彼らと私たちの相互の努力のもとに創られます。日本の市場を知ってもらうため、たくさんの話をし



コロンビア・トゥマコの生産者

ながらこのカカオ豆を生産しています。

今後は日本の皆さまがチョコレートとして味わい、その声を再び生産者に戻してください。その輪が品質の維持・向上へ、そしてトゥマコのカカオ豆の大きな未来へとつながります。不二製油の皆さまには、チョコレート製品「フロルデカカオトゥマコ」を通して、彼らのカカオ豆のおいしさを引き出していただくとともに、お客さまの声をまた私たちまで届けていただければ、と期待しています。

プロフィール

CACAO DE COLOMBIA S.A.S. 共同経営者
良質なカカオ豆を求め、世界を旅するカカオハンター®。
国内のチョコレート事業開発の他、カカオ豆生産国でチョコレート開発指導、カカオ豆品質改良指導に携わる。



カカオハンター®
小方 真弓氏

大豆

非遺伝子組み換え大豆の安定調達

当社グループでは、非遺伝子組み換え(Non-GMO)大豆のみを調達しています。北米産原料の調達に際しては厳しい分別管理のもと、非遺伝子組み換え大豆の輸送・保管を実施し、製造状況、分別管理状況チェックのため毎年現地を訪問しています。

また、吉林不二蛋白(中国、以下JFT)では2011年から原料脱脂大豆の外部購入を開始し、4年が経過しました。大豆の産地である吉林省、黒龍江省にて分別管理しているサプライヤーを起用し、GMO分析を実施したうえで受け入れています。

従来、中国では遺伝子組み換え大豆の栽培は禁止されていましたが、近年は搾油原料として海外産の遺伝子組み換

え大豆が輸入されています。このため2013年11月、JFTではIP認証[※]を取得し管理強化に努めました。今後は、非遺伝子組み換え原料を安定的かつ継続的に調達できるよう、取り組んでいきます。

※ IP認証: Non-GMO製品の供給チェーンであることの認証。



大豆畑

「有識者とのステークホルダーダイアログ」フォロー報告

2014年6月23日に開催した有識者とのステークホルダーダイアログで挙がったご意見について、参加いただいた皆さまにその後の対応状況の報告を行い、意見や感想をいただきました。
※ 2014年実施のステークホルダーダイアログの詳細については、「不二製油グループ サステナビリティレポート2014」のP24をご覧ください。



2014年の実施風景

ステークホルダーからのコメント

不二製油グループサステナブル調達の取り組みについて

今年のエルマウサミットでは「責任あるサプライチェーン」が議題となりました。G7の先進国はサプライチェーンの最下流に位置する責任と影響力を行使して世界の労働人権、環境に配慮することが求められます。不二製油グループのサステナブル調達対象のカカオ豆、パーム油、シア、いずれも最上流の生産地で労働や環境問題を引き起こすリスクが高いことは、欧米の消費者の一般常識になりつつあります。その認識が薄い日本において、BtoB企業として取引先企業に働きかけながら地道にサステナブル調達を進められていることは高く評価されます。一方、日本でもフェアトレードやオーガニック製品などエシカル消費への関心が高まっており、サステナブル調達は必須の戦略になる気配があります。日本のサステナブル調達のリーディング企業として、取引先メーカーそして消費者を巻き込んだ取り組みの進化を期待しています。



大和総研 調査本部
主席研究員
河口 真理子氏

フォロー報告のコメントを受けて

当社グループは、パーム油やカカオ豆等の限りある資源を使用している企業グループとして、環境や人権に配慮した取り組みが必要不可欠であると考えています。この課題解決を実現するためには、当社グループのみならず、河口氏、岩附氏のご指摘

食品中間素材メーカーとして取引先だけでなく消費者やステークホルダーからの期待に応え持続可能な調達を実践されていることを高く評価します。

トレーサブルカカオ豆による地域貢献もご報告されていますが、世界カカオ財団が2014年に開始した“ココアアクション”では、世界のカカオ豆生産量の6割近くを生産するガーナ、コートジボワールを対象に、カカオ豆生産地域の児童労働の数や通学している子どもの割合などをKPIとして設定しています。原料生産現場にある児童労働を含む社会的課題の解決への不二製油グループとしての貢献、また素材購入先のメーカーのエシカルな商品開発をサポートするサステナブルな原料調達の増加を期待しています。



特定非営利活動法人
ACE 代表
岩附 由香氏

の通り、お取引先様や消費者と共に取り組むことが重要であると考えています。今後も、社会的要請を真摯に受け止め、社会との共生を図るべく、サステナブル調達を推進して参ります。
不二製油グループ本社株式会社 CSR・リスクマネジメントグループ



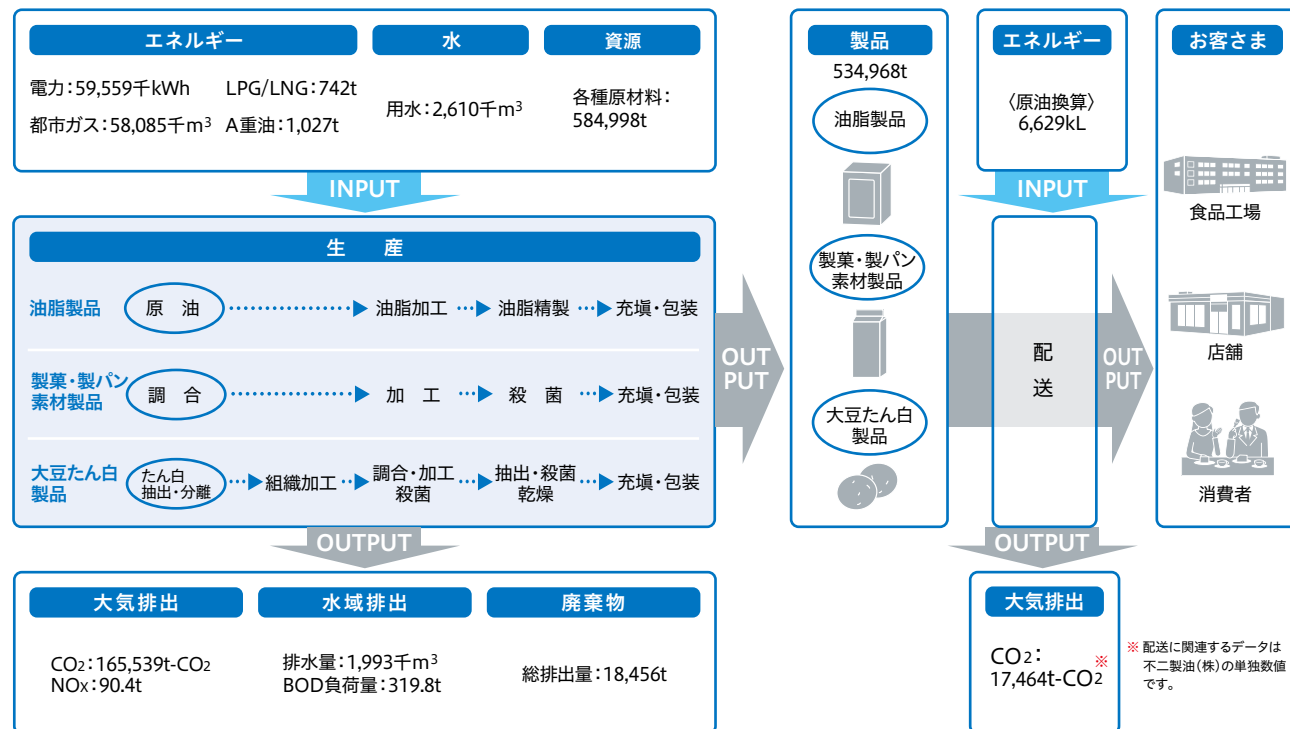
サステナブル経営の実践～6つの重点テーマ～

環境

不二製油グループは経営理念に基づいて策定した「不二グループ環境基本方針」を原点に事業活動を推進しています。
また、2014年には「不二製油グループ 安全品質環境 基本方針」を制定、環境ビジョン2020達成に向けて取り組んでいます。

2014年度目標・実績および環境ビジョン2020					
【自己評価基準】○ 達成 △ 達成できなかったが目標に近づいた × 達成にむけた改善ができなかった					
項目	内容	2014年度実績	環境ビジョン2020 進捗	2014年度 評価	環境ビジョン2020
省エネ推進 (国内グループ)	CO ₂ 排出量の削減	対前年 4.8% の削減	10.6% 低減	○	20%低減 (基準年対比:2003-2005年平均值(東京都方式)) 2014年度時点での到達度 53%
給排水の削減 (国内グループ)	給水量の削減	対前年 3.9% の削減	19.4% 低減	○	20%低減 (基準年対比:2003-2005年平均值(東京都方式)) 2014年度時点での到達度 97%
	排水量の削減	対前年 3.2% の削減	19.4% 低減	○	
廃棄物削減 (国内グループ)	排出廃棄物の削減	再資源化率 99.82%		○	再資源化率 99.8% 以上 2014年度時点での到達度 100%
省エネ推進 (海外グループ)	CO ₂ 排出量の削減	対前年 1.1% の削減	27.8% 低減	○	20%低減(2006年度対比) 2014年度時点での到達度 100%

不二製油(日本)の事業活動に伴う環境負荷の全体像



環境マネジメント

環境ビジョンの進捗

当社グループは2010年「不二グループ環境ビジョン2020」を策定し、基準年(2003-2005年平均)対比で2020年までのCO₂排出量、給排水量をそれぞれ20%削減する目標を設定し、環境保全活動を推進しています。国内グループ会社における2014年度実績は、CO₂排出量は10.6%、給水量は19.4%、排水量は19.4%と基準年対比でそれぞれ削減しており、環境ビジョンは順調に推移しています。

引き続き、生産設備のリニューアルにおける省エネ設備の導入、日常の省エネ活動や給排水の削減に努めます。一方、海外におけるCO₂排出量は基準年対比では27.8%減となり、海外においても環境目標を大幅に上回りました。今後は海外グループ会社ごとの目標設定を行うことにより、さらにCO₂排出量の削減を推進します。

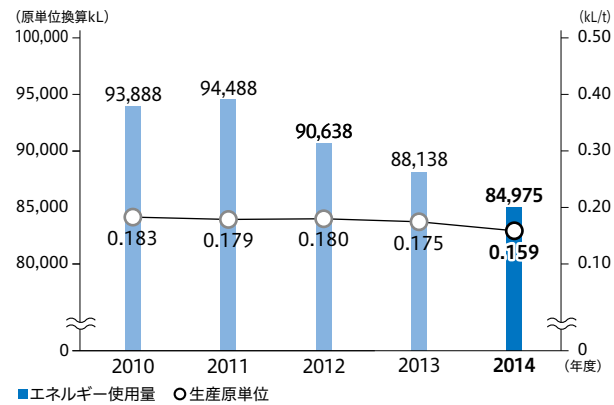
省エネへの取り組み

2014年度の当社(日本) および国内グループ会社のCO₂排出量は約165,539t-CO₂となり、前年度比4.8%減少しました。生産数量が6.2%増加した中での減少であり、原単位は9.4%と大きく減少しました。「不二グループ環境ビジョン2020」の目標達成へ向け、着実に省エネ設備の導入や省エネ活動の推進の成果が出ています。

また、海外グループ会社において、CO₂排出量は350,334t-CO₂となり前年度比1.1%減少しました。2006年度対比では27.8%減少しており、引き続き、燃料転換やコージェネレーション設備の導入など、CO₂排出量の削減に努めていきます。

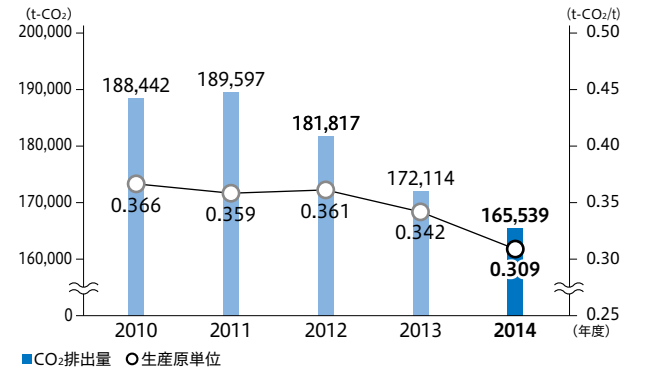
エネルギー使用量(原油換算)と原単位推移

不二製油を含む国内グループ会社

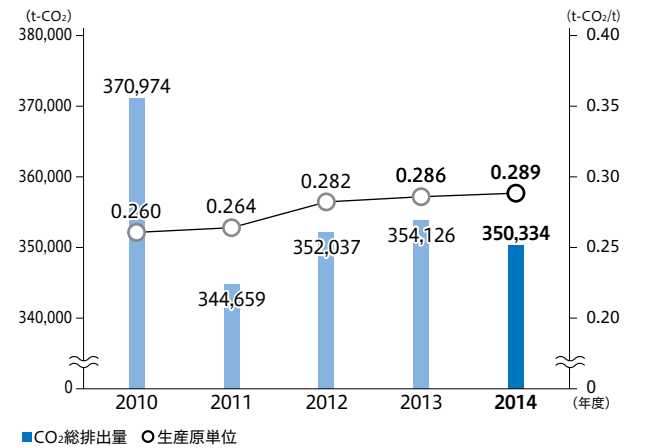


エネルギー使用量(CO₂排出量換算)と原単位推移

不二製油を含む国内グループ会社



海外グループ会社



生産技術の開発によるCO₂排出量の削減

更なる熱回収の推進(国内グループ会社の取り組み)

当社グループでは、これまでも個々の設備における排熱回収や多重効用による熱回収を行うことによって省エネを進めてきました。しかし、機器やプロセスごとに単独で熱回収をしていくことに限りがあるため、プラント全体の熱バランスを最適化する手法としてピンチテクノロジーを導入し、新プラントの設計や既設のプラントの組み直しを始めました。この組み直しによって、あるプラントでは年間1,942kLの使用から1,662kLになり、15%もの削減が実現しました。今後も順次ピンチテクノロジー手法を用いた既設プラントの機器構成の見直しを図り、無駄なエネルギーの削減に努めます。

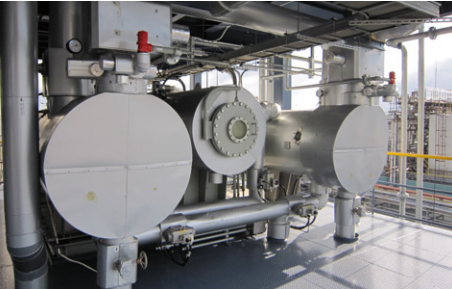
脱臭塔に省エネ型真空装置を導入

不二製油（日本）では、2013年度の千葉工場に引き続き、2014年度に阪南事業所に脱臭塔用省エネ型真空装置を導入しました。これにより、重油換算で約2,200kL／年であったエネルギー消費量を半減以下の約1,000kL／年に下げることができました。さらに、年間約16,600m³であった排水量も約3,000m³と激減しています。この省エネ型真空装置は、水蒸気を駆動力とするものから冷凍機即ち電気を使って真空を作る仕組みに変更しています。

今後、新設脱臭塔はもちろん、既設の脱臭塔についてもこの省エネ型真空装置の導入を検討していきます。

エネルギーと排水量の改造前後

	エネルギーkL／年	排水m ³ ／年
従来装置	2,200	16,600
新装置実績	1,000	3,000
従来との差 (実績)	-1,200 -54.5%	-13,600 -81.9%



阪南事業所の新脱臭塔用省エネ型真空装置

また、フジ ベジタブル オイル（アメリカ）では、2015年より省エネ型真空装置を有する新規脱臭塔が稼働しています。これにより、生産スケールを大きく増加させるのと併せ、蒸気使用量は原単位で20%以上の低下、排水量も同様、原単位20%の低下と大幅に改善する見通しです。

輸送によるCO₂削減の実現

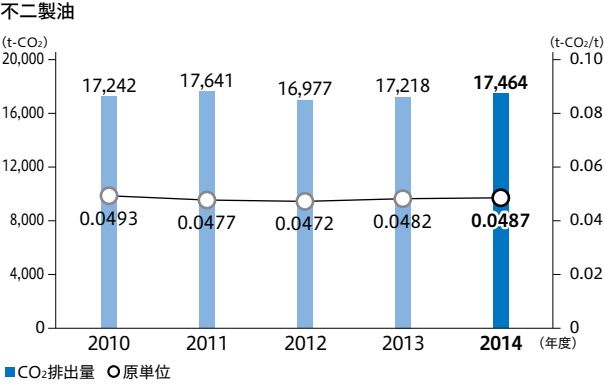
当社（日本）では、CO₂排出量の抑制を目的とした鉄道貨物輸送への転換（モーダルシフト）に取り組んでいます。2014年度の輸送による原単位は、社内移動数量の増加により、微増しました。また、モーダルシフト実績は、前年に比べ1,608トン減少しましたが、目標値21,353トンに対し124トン上回りました。

なお、2013年度より、国土交通省・鉄道貨物協会が推進する「エコレールマーク」の企業認定を取得しています。これは、地球環境に優しい鉄道貨物輸送を一定以上利用している企業に対して認定されるもので、マークの表示によって消費

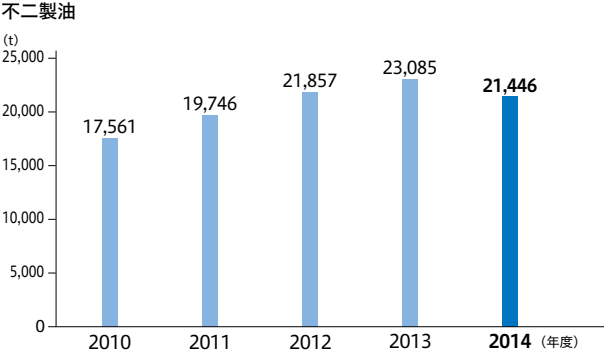
者の皆様に判断基準を提供する制度です。2015年2月27日時点で、当社（日本）を含む87の企業が、エコレールマーク認定を受けています。

2015年度は、社内移動のトレーラーの大型化を計画しています。今後も輸送によるCO₂の減少に努めていきます。

輸送でのCO₂排出量と原単位推移



鉄道輸送量推移



水資源の保全

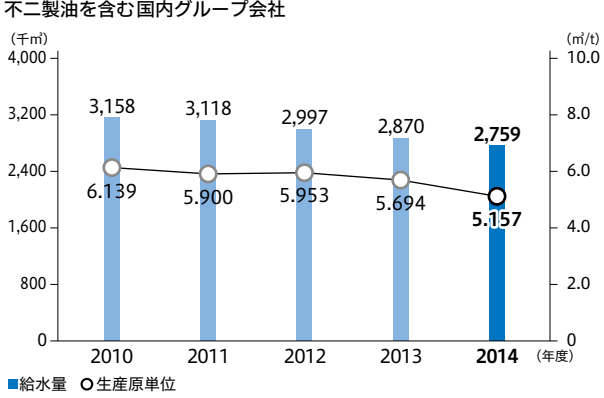
給水量・排水量は国内グループ会社、海外グループ会社ともに削減

2014年度の当社（日本）および国内グループ会社の給水量は、前年度比3.9%減の約2,759千m³となり、生産原単位では9.4%低下しました。排水量についても、総量は前年度比で3.2%減少となり、生産原単位では8.8%低下しました。これは各工場が地道な節水活動に取り組み、給排水量削減を実行したことによるものです。

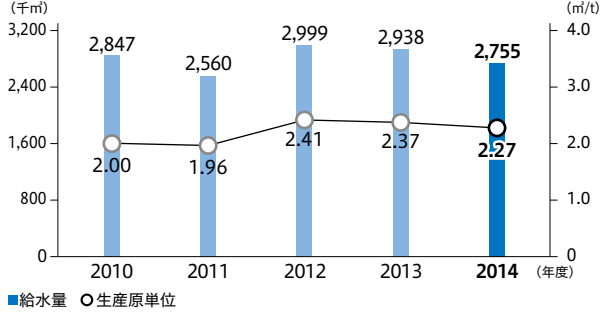
海外グループ会社においては、2014年度の給水量は、対前年6.2%減少し、生産原単位も4.2%低下しました。排水量は、前年度比20.1%、生産原単位も18.4%と大幅に低下しました。



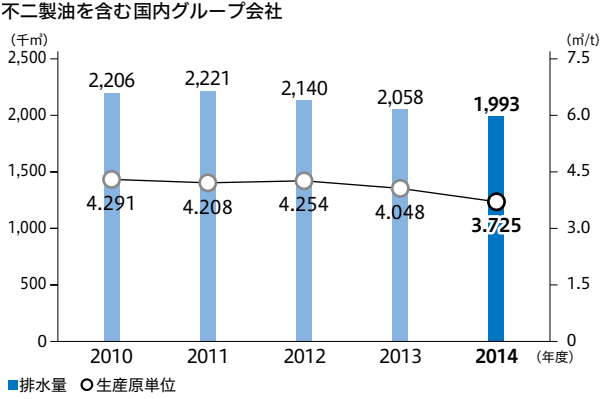
年間給水量推移と原単位推移



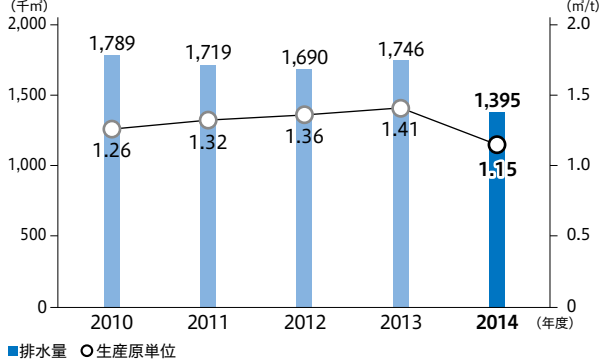
海外グループ会社



年間排水量推移と原単位推移



海外グループ会社



廃棄物の削減・リサイクル

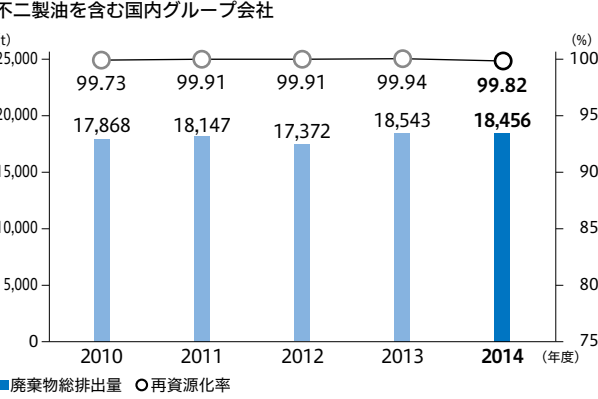
国内グループ会社は微減、海外グループ会社は大幅削減

2014年度の当社（日本）および国内グループ会社の廃棄物総排出量は18,456トンとなり、前年度比0.5%減となりました。これは生産・販売の連携で在庫管理を強化することにより、製品廃棄を減少させる地道な努力の継続が奏効したものです。

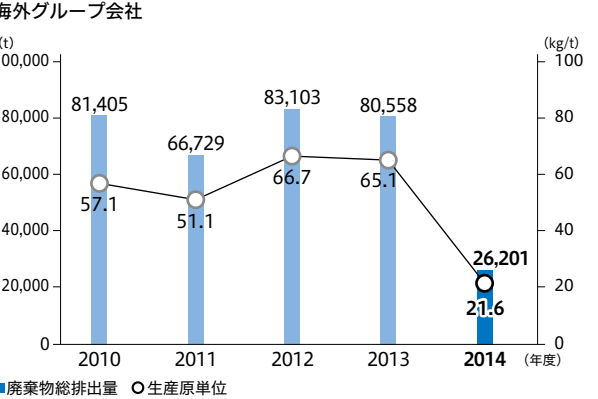
また、2012年度より燃えがら・ばいじんのセメント原料への再資源化を実施し、国内グループ会社での2014年度の再資源化率は99.82%と、高いレベルで維持しています。

海外グループ会社においては、2014年度より有価処理できているものは廃棄物に含めないよう集計方法を変更したため、廃棄物総排出量は、前年度比32.5%と大幅に減少し、生産原単位も前年度比33.2%と大幅に減少しました。最終処分率は、2013年度2.9%に対し、2014年度は3.2%でした。

廃棄物総排出量と再資源化率および生産原単位



廃棄物総排出量と原単位推移





サステナブル経営の実践～6つの重点テーマ～

人づくり

不二製油グループでは、「人は財産」と考え、人材・人権に関する方針を定めています。さらに中期経営計画の基本方針では「グローバル経営」実現の要として、グローバル人材の育成に注力しています。合わせて人事制度の改革に取り組んでいます。

2014年度目標・実績および中期目標				
【自己評価基準】○ 達成 △ 達成できなかったが目標に近づいた × 達成にむけた改善ができなかった				
項 目	2014年度目標	2014年度実績	2014年度評価	2017年度目標
グローバル人材の育成	グローバルに活躍できる人材をグループ全体で育成し活用することを目的とした「グローバル人材育成プログラム」を展開する。	1.前年度に引き続き、海外早期トレーニー(3カ国へ5名)の派遣を実施した。 2.前年度に引き続き、Global Talent Workshop(ナショナルスタッフ研修)を実施(参加者:8カ国20名)した。 3.Fuji Global Executive Training Programを実施(受講者:12名)した。	○	1.グローバル戦略の実行を牽引するリーダー人材の育成を行う。 2.不二製油グループの経営理念・行動指針を実践できる人材の育成を行う。 2014年度時点での到達度 30%
ダイバーシティとワーク・ライフ・バランス	1.フレックスタイム制度の対象を拡大する。 2.男性育休取得率の向上を目指す。 3.生産職場に女性を配属する。 4.女性管理職比率3%達成を目指す。	1.交代勤務を除く全社員を対象として拡大した(申請方式)。 2.2014年度に15%を達成した。 3.2015年入社で新たに3名を採用した。 4.新任を含む女性管理職比率3%を達成した。	○	1.業務の効率化、仕事の棚卸による実働時間を圧縮する。 新規目標 2.限定正社員制度を実施する。 新規目標 3.女性管理職比率5%を達成する。 2014年度時点での到達度 68%

人材理念

基本的な考え方

当社グループでは、人材は会社を支える財産であるという考えのもと、「人材に関する方針」「人権に関する方針」を定めています。その方針に従って意欲ある人材が、グローバルに

活躍できるよう、教育と環境整備の両面から支援しています。一人ひとりが能力を発揮できる職場づくりに取り組むことで、製品品質やサービスの向上、ひいては会社の発展につなげ、社会から信頼される当社グループであり続けることを目指します。

人材理念

人材に関する方針

- 1.意欲のある社員に、イキイキと能力を発揮できる職場を積極的に提供します。
- 2.グローバル企業として、多様な人材が活躍できる環境を整えます。
- 3.公平・公正な人事制度(評価/処遇/育成)を構築・運営します。
- 4.教育・研修制度を充実させ、自己啓発を支援する風土づくりに努めます。
- 5.多様な働き方を支援し、安全で働きやすい職場を提供します。

人権に関する方針

- 1.グローバル企業として、基本的人権に配慮し、国際的な人権規範を尊重します。
- 2.国籍、人種、性別、年齢、宗教、障がいなどに基づく不当な差別は行いません。
- 3.児童労働・強制労働・不当な低賃金労働の防止に取り組みます。
- 4.雇用における機会均等を推進します。

グローバル人材の育成

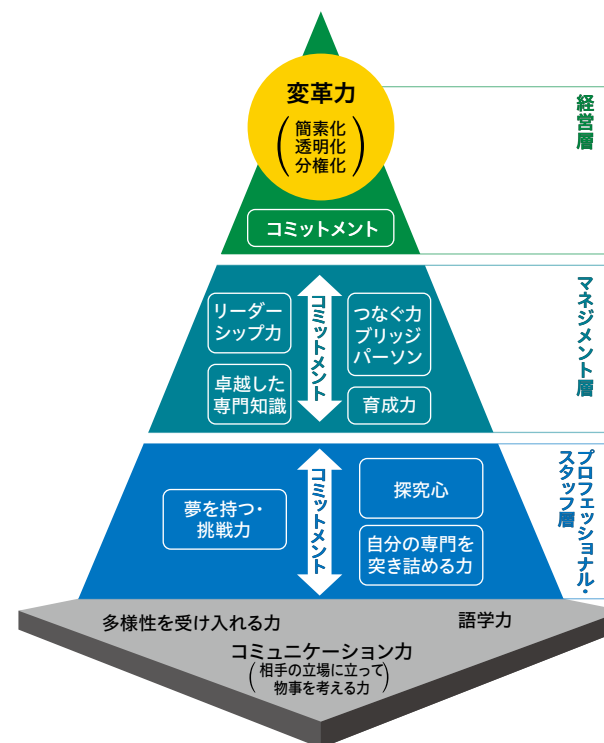
当社グループでは、中期経営計画の基本方針の一つに「グローバル経営の推進・加速」を掲げており、グローバル人材の育成は、グローバル経営実現の要であると考えています。「人の成長が企業の成長につながる」との考えに基づき、グループ横断的に国籍や性別にとらわれず、多様な人材を育成、登用する環境を整えることを目指して、グローバル人材育成に取り組んでいます。

次期グローバル経営層の育成

2014年度より、グローバル競争力向上に寄与する経営およびリーダー人材を育成することを目的に、エグゼクティブ・トレーニングプログラムを開始しています。マネジメント層を対

象に開始し、今後はマネジメント層全体にも広げてコアな人材を育成していきます。

不二製油グループが求めるグローバル人材の力



海外早期トレーニー制度の継続実施

当社(日本)ではグローバルに活躍できる人材を育成することを目的に、若手社員を対象にした約6カ月間の海外研修制度「海外早期トレーニー制度」を2011年度から実施しています。

2014年度は合計5名が海外での研修を体験しました。語学研修や各専門分野での現場研修を通じて、異文化、多様性を肌で感じ、また日本の技術や考え方を現地に伝え帰国しました。

2011～2014年度のトレーニー28名のうち7名は、すでに海外のグループ会社に駐在し、研修の経験を活かして活躍しています。2015年度は研修内容を見直し、グローバル経営に必要な人材の更なる育成、確保に努めます。



フジオイル ヨーロッパ(ベルギー)のスタッフと

人事制度の改革

グローバル競争に勝ち抜くため、当社(日本)は管理職の人事制度改革を行い、2015年度から実施しています。改革の柱は、給与制度改革、新たなキャリアパスの形成、評価制度改革、人材育成の推進の四点です。

給与制度改革では、それまでの職能資格制度を廃止し、職務の内容や経営における重要性等が報酬に反映されやすい職務給制度を導入することで、よりフレキシブルで、納得性のある給与体系としました。

キャリアパスについて、管理職層の中でも、専門分野の追求や社内での業務改革に集中するコースを新たに設け、社内外の優秀な人材を登用しやすい仕組みとしました。

評価制度改革では、経営課題を各部署が遂行できているかを、評価に直接連動させる仕組みとしています。目標達成に対する管理職の責任をより明確にすることで、企業としての競争力強化に結び付けていきたいと考えています。

人材育成においては、管理職の役割における最重要項目の一つとして、その遂行度合いを新たに重点項目として評価に入れています。多様化の時代において、管理者に求められる要件は高度化、複雑化しています。管理職が認識することで、最大の資産である「人材」の強化を図ります。

TOPICS

ASEANでの寄付講座の実施

不二製油グループでは農林水産省とASEANによる「日・ASEAN食産業人材育成官民共同プロジェクト」に賛同し、寄付講座を実施しています。これは、ASEAN各国の農業系大学の学生を対象に、日本の産業との橋渡しとなる人材を育てる取り組みです。2015年1月には、タイ・カセサート大学にて実施。質疑では油脂に関する健康問題やパームミルのパイプロ処理などの質問があり、真剣な眼差しで聴講する姿が印象的でした。

その後もフジオイル アジア(シンガポール)が主体となって、マレーシアやインドネシアでの講義を実施しています。今後も、ASEAN地域での食産業の発展に向けて、事業に加え、人材育成の側面からも貢献していきます。





サステナブル経営の実践～6つの重点テーマ～

リスクマネジメント

グローバルに事業を展開することで生じる多様なリスクを最小化するため、2013年3月に「リスクマネジメント委員会」を設置しました。同委員会は2014年5月に「コンプライアンス委員会」と統合して「リスク・コンプライアンス委員会」となり、リスクマネジメントおよびコンプライアンスについてグループ全体を視野に入れた包括的な取り組みを行っています。

2014年度目標・実績および中期目標				
【自己評価基準】○ 達成 △ 達成できなかったが目標に近づいた × 達成にむけた改善ができなかった				
項目	2014年度目標	2014年度実績	2014年度評価	2017年度目標
リスクマネジメント	1.緊急事態における対応体制に関する規程を策定する。 2.メディアトレーニングを実施する。 3.緊急事態に関する規程をグループ会社にも浸透させる。	1.緊急事態に関する規程を策定し体制を整えた。 2.メディアトレーニングは次年度に先送りとなった。 3.グループ会社の代表者向けに説明会を実施した。	△	1.リスク管理表におけるリスク強度結果を経営者へ報告し、リスク対応と今後の計画を明確にする。 2.リスク発生時における初動対応についての取り決めやメディアトレーニングを実施する。 2014年度時点での到達度 30%

リスクマネジメントの推進

不二製油グループでは、平時より企業の目標・計画達成を阻害する要因を見出し、顕在化する前に対策を講じる「リスクマネジメント」の推進、および突発的な大事故「クライシス」が発生した場合の損失を最小限に抑え、事業継続を徹底する「クライシス・マネジメント(危機管理)」の両側面で推進しています。

具体的には、「リスク・コンプライアンス委員会」にてリスク・クライシスレビューを年1回実施し、取締役会に報告しています。2013年度には重点リスクの決定を行い、「リスクマップ」で戦略上リスクも含めた全社リスクを可視化しました。また、2014年度より、リスク管理の見直しを図り、「リスクマネジメント進捗管理表」を作成、当社グループ全体での運用に着手しています。

2015年度は、リスクマネジメント進捗管理表のPDCA構築に加え、2015年6月施行のコーポレートガバナンス・コードも踏まえた、事業戦略におけるリスク対策も対応できるよう取り組む計画です。

大規模災害を想定した事業継続計画(BCP[※])の作成

不二製油(日本)では、大規模災害の発生を想定し、事業活動の継続あるいは迅速な再開に向けた手順を示した「地震災害事業継続計画」および「不二製油中央災害対策本部規定」をかねてから策定しています。

これに加えて2015年度からは、耐震診断の見直しや機器の転倒防止など具体的な対策の実施を着実に進めています。

※ BCP : Business Continuity Planningの略語。

情報セキュリティ

技術対応の推進

当社(日本)では、ワークスタイルの変革のため、外勤営業員を中心にタブレット端末導入を進めており、シンクライアント技術や仮想化技術を活用することによって、利用者の利便性の向上を図ると共に、更なる情報セキュリティの向上を実現しています。

従業員教育の徹底

当社(日本)では毎年、情報機器の適正利用と情報セキュリティ意識向上を目的に、情報セキュリティ・コンプライアンス教育を実施しています。具体的には、システム部員が現場に出向いての出張講義を2014年度計12回実施しました。2015年度も継続的に行っていきます。

ダイバーシティ／ワーク・ライフ・バランスの推進

多様な人材の活用

不二製油グループでは、外部環境の変化に迅速かつ柔軟に対応し、多様な属性や価値・発想を取り入れることができるよう、ダイバーシティの推進に取り組んでいます。

不二製油(日本)では、自社のニーズに合った能力を持つ人材を、国籍問わず採用しており、研究開発、企画、管理などさまざまな分野で外国籍の社員が活躍しています。2015年度には新たに3名を採用しました。

また、65歳を上限とする定年退職者再雇用制度を設け、その運用にあたっては、個別に面談を実施し、就労条件が本人の希望にできるだけ沿うよう努めています。2014年度は、16名が定年を迎え、希望者11名全員が引き続き活躍しています。

障害者雇用についても、就職困難者を対象とした面接会に参加するなど、積極的に推進しており、法定雇用率を上回る水準を確保してきました。2014年度の障害者雇用率は2.02%です。

女性の活躍推進にも早くから取り組んでおり、2020年度の女性管理職比率7%を目標に、育成に励んでいます。2014年4月時点での女性管理職比率は3.1%です。

法定を上回る育児・介護制度の導入

誰もが自らの能力を発揮し続けるため、介護・育児に着目し、制度面での充実を図っています。2014年度にはフレックス制度を導入し、2015年度からは、介護事由での積立有給休暇使用を新たにルール化しました。また、研究開発の一部においては、裁量労働制を試験的に導入しています。また、育児面では子育てサポート企業としての認定「くるみんマーク」を3期連続で取得しています。



次世代認定マーク「くるみん」を取得

並行して、制度が実態とかい離しないよう、利用しやすい環境を整え、制度の浸透が進んできました。女性の育児休業取得率は100%となっています。

男性の育児休業取得を推進

当社(日本)では、2009年度から積極的に男性育児休業の取得を推進しています。2014年度は職場での体制を整えるため、対象者と上司への個別案内を実施しています。また、男性の取得事例紹介や、男性用の制度説明資料の作成、配布などに取り組み、2014年度の取得率は15%となりました。引き続き、啓発活動を行っていきます。

福利厚生サービスの導入による育児・介護のサポート

当社(日本)では、従業員の育児・介護にかかる体力的、精神的、経済的負担を少しでも軽減するため、育児や介護のサービスを重点的にサポートする福利厚生サービスを2015年度に導入しました。具体的には、出産直後の母親のサポートや介護相談、サービス利用時の費用補てん等、多くの支援サービスを付加しています。

TOPICS

育児休業復帰フォローアップセミナーの実施

2014年度における女性の育児休業取得率は100%となりました。しかし、復帰者を取り巻く職場や家庭の環境はさまざまであり、万全の状態でキャリアを継続できているケースばかりではありません。「活きたキャリアを継続する」ことをテーマにセミナーを実施しました。90%を超える配偶者、上司の参加のもと、職場の抱える課題、休業者本人の意識、家庭での協力体制の構築など、活発な意見交換が行われました。



「不ニアクティブネットワーク(FAN)」の定着・推進

「不ニアクティブネットワーク」は、ダイバーシティやワーク・ライフ・バランスへの取り組みを推進する組織として、1998年にプロジェクト形式で発足しました。誰もが自らの能力を発揮できる職場風土づくりを目指し、現在は仕事と育児・介護の両立支援や従業員の意識改革などに取り組んでいます。育児をテーマとして、各種制度や行政サービス等を紹介した「ライフプランおたすけノート」や、同じく介護をテーマにした「介護おたすけノート」の発行、自己申告制度の導入、各種セミナーの企画・運営などを実施しており、現在も精力的に活動を行っています。



「ライフプランおたすけノート」(左)と「介護おたすけノート」

Web 役員メンター制度、カムバックエントリー制度、企業風土委員会、職域拡大など、詳細はWebサイト「人づくり」をご覧ください。
URL : <http://www.fujiioilholdings.com/approach/human.html>

サステナブル経営を支える体制 コーポレートガバナンス

グローバル化の進展とともにコーポレートガバナンスの重要性が増しています。この状況の中で、不二製油グループは、2015年6月より適用されたコーポレートガバナンス・コードへの対応、2015年10月から移行したグループ本社制におけるガバナンス体制の見直しを含め、事業活動の基本となるコーポレートガバナンスの強化に取り組んでいます。

コーポレートガバナンスの構築

当社グループでは、透明性の高い健全な経営の実現に取り組み、株主価値を継続的に高めることをコーポレートガバナンスの基本方針としています。このため、経営の効率化や意思決定の迅速化、タイムリーな情報開示、組織体制の整備、コンプライアンスの強化などに取り組んでいます。

2015年6月より適用された「コーポレートガバナンス・コード」には、制定趣旨やその基本方針を踏まえ、積極的に取り組んでいます。

コーポレートガバナンス・コードへの対応にあたっては、以下の通り当社の基本方針を定めています。
「コーポレートガバナンス基本方針（抜粋）」

1. 株主との関係

株主との建設的な対話を促進するための体制整備及び取り組み等に関する方針を定めます。

2. 政策保有株式

政策保有株式として上場株式を保有する場合、その保有に関する方針を定め開示し、政策保有株式に係る議決権の行使について、適切な対応を確保するための基準を策定し開示します。

3. 情報開示

実効的なコーポレートガバナンスを実現するため、(1)経営計画、(2)コーポレートガバナンス・ガイドライン、(3)取締役報酬を決定するにあたっての方針と手続き、(4)取締役候補者及び監査役候補者の指名を行うにあたっての方針と手続きについて開示します。

4. 取締役会の体制

取締役のうち2名以上を独立した社外取締役として選任します。

5. 取締役候補者及び監査役候補者の選定基準

取締役候補者及び監査役候補者の選定基準及び手続きを制定・開示します。監査役には、財務及び会計に関する適切な知見を有している者を1名以上選任します。

社外取締役メッセージ

不二製油グループは日本で食品業界の黒子に徹し、今日の地位を築き上げてきました。その過程で顧客企業に食らいついていった社員OB各位の努力には、ただ頭が下がります。しかしながら、この成功は日本の人口が増えていく局面で実現したことを忘れてはなりません。

向こう10年、20年というスパンで将来を見渡すと、日本では確実に口の数が減ると言われています。これは食品メーカーにとって由々しき問題です。しかも超高齢化の進展に伴って食が細くなる可能性も考慮すると、問題は見かけ以上に深刻と認識すべきでしょう。

人口構造にまつわる問題はジワジワとやってくるだけに厄介です。一夜明けて景色が一変していたとなると誰もが身構えますが、ゆっくりやってくる変化はなかなか体感できません。頭で理解しても、まずは日々の仕事優先となりがちで、対応

が致命的に遅れてしまうのです。

幸いなことに、不二製油グループの現経営陣は日々体感しにくい問題と正面から向き合っており、果敢に先手を打っています。ブラジルのハラルド社の買収も、グループ本社制への移行もその一環です。動き始めた変革を着実に実らせて、「攻めのガバナンスの見本は不二製油グループにあり」と言われるよう、私も不二製油グループのグローバル展開を側面から支えていきたいと思っています。

不二製油グループ本社株式会社
社外取締役
神戸大学大学院
経営学研究科 教授
三品 和広



また、2015年10月からのグループ本社制への移行により、実効性のある経営の監督と執行との分離と促進を通して、更なるコーポレートガバナンス体制の強化を図っています。

株主・投資家との対話

当社グループは、株主・投資家の方々との対話を重視しIR活動に注力しています。

株主・投資家と経営陣とのコミュニケーションの場として、株主総会後には、経営陣と株主の皆様が直接コミュニケーションを図る株主懇親会を開催しています。機関投資家の方とはスモールミーティングや個別ミーティングを実施しています。

株主の皆様にも企業活動をご理解いただくため、ホームページや招集通知、資料の改善を行うとともに、利便性の高いインターネットを活用した議決権行使システムを採用しています。

ホームページではイベントに参加できない株主・投資家の皆様にも、適時かつ公平な開示ができるよう努めています。

また、2015年7月にはESGの取り組みを主題としたスモールミーティングを実施しました。当日はグループ本社・清水洋史社長より、当社グループのESGに対する考えと具体的な取り組みについてプレゼンテーションを行った後、投資家の方々との意見交換を行いました。今後もこのような場を通して、投資家の方々との対話を積極的に実施していきたいと考えています。

コンプライアンス

不二製油グループは、日々の業務の中で法令や社内規定を遵守し、高い倫理観を持って行動することが、株主、取引先、お客様をはじめとするステークホルダーの皆様の期待に応えることにつながると考えています。その指針として「不二製油グループ行動規範」をグループ全体に浸透させています。

2015年度は「不二製油グループ・ビジネス行動ガイドライン」(グリーンブック)を策定、7か国語に翻訳し、グループ各社に浸透を図る取り組みを始めています。また、リスクベースアプローチに基づき、特に海外での法令違反リスクが高まっている腐敗防止法や競争法にかかるコンプライアンス・プログラムを策定しています。今後はさらにグローバルコンプライアンス・プログラムの整備を進めます。



グリーンブック

性ある「経営と執行の分離」にも取り組んでいます。

今後のグローバル化は、供給の安定確保や市場開拓というよりは、新規事業や新製品開発のために未知の分野へアクセスすることを目的にする場合も推測されます。海外のベンチャー企業とのアライアンスという、日本企業が最も苦手としてきた行動に挑戦していくことになるかもしれません。そのような局面でよい貢献ができるように努めたいと思います。

不二製油グループ本社株式会社
社外取締役
法政大学経営学部
市場経営学科 教授
田路 則子



サステナブル経営を支える体制

地域・社会との共生

不二製油グループは世界の人々や地域・社会の発展を願い、共に生きることが重要と考えています。グループ各社は、「食」「健康」「豊かさ」をテーマとして、自社ができることは何かを考え、社会貢献活動を推進しています。

日本

食の大切さを体験的に学ぶ食育プログラムを実施

不二製油(日本)では、次世代を担う子どもたちへ食の大切さや社会と食の関わりを伝えていくため、社内ワーキングマザープロジェクトによる提案がきっかけとなり、2014年度より小学生への食育プロジェクトを特定非営利活動法人“放課後NPOアフタースクール”と連携し、推進しています。具体的には、大豆の環境問題や食資源について体験的に学ぶ「放課後おやつづくり」とゲームをしながら楽しく学ぶ「授業」の2本立てで実施。今後も子どもたちに、楽しみながら食の大切さを知ってもらえるよう、取り組んでいきます。



食の大切さを伝える授業を行う当社社員

不二たん白質研究振興財団による研究助成

当社(日本)は、1979年「大豆たん白質栄養研究会」を設立し、その事業は1997年の「財団法人」設立を経て、2012年4月公益事業として内閣府に認定されました。財団は2014年度36件の研究課題に対して助成金を交付し、2015年度の助成課題公募では、32件を採択しており、設立からの累計助成件数は980件に上っています。また、研究成果を広めるため、一般向け公開講演会の開催にも注力しており、2014年度は仙台にて開催しました。2015年5月の研究報告会では助成研究成果について活発な議論や交流が盛んに行われました。今後も財団の運営と発展に協力、貢献していきます。



仙台講演会会場

海外

ガーナの水衛生プロジェクトに協賛

フジオイル ヨーロッパ(ベルギー)では、2014年より、コミュニティ団体「コリソガーナ」の主旨に賛同し、協賛しています。コリソガーナでは、ガーナの人々が健康で豊かな生活を送ることができるよう、健康教育や安全な飲み水の提供を支援しています。2014年は、井戸の掘削作業の支援を行いました。今後も、コリソガーナを通して、現地の支援を継続していきたいと考えています。



ガーナの人々に安全な飲み水を提供

大豆に関する研究アワード

タイで3度目の表彰式を開催

当社(日本)では2012年より、大豆に関する研究アワード「TDA※ Soybean Study Award」をタイで毎年開催しています。同国は東南アジアの中でも栄養学の専門教育や栄養士養成が進んでおり、東南アジアの栄養学をけん引するという気概にあふれています。豆乳の喫食文化も長く、大豆ルネサンスを掲げる企業として、本アワードを通じてタイ人によるタイ人のための新しい大豆加工食品の提案や普及に貢献することを目指しています。2015年4月、臨床研究やタイの伝統料理・デザートに大豆を利用したレシピ開発など、14件の表彰式を開催しました。

※ TDA : Thai Dietetic Association(タイ栄養士会)



タイ栄養士会2015 Soybean Study Award 試食会

第三者意見

2015年9月、国連総会で2030年までに国際社会が達成に向けて取り組むべき「持続可能な開発目標」が採択されます。その中でも、飢餓の終焉、栄養の改善、持続可能な農業、食料廃棄物の半減など、食に関わる課題解決への関心は世界的に高まっています。一方、生産地から消費地に至るまで、グローバルに伸びた食品バリューチェーンには、環境、労働、人権、安全性など様々な問題が起きるリスクがひそんでいます。この両面において、食に関わる企業には社会的責任が強く求められていますが、食品中間素材メーカーである不二製油グループには果たすべく大きな役割もあると思います。これらを念頭に、不二製油グループのサステナビリティレポート2015について、以下述べたいと思います。

一点目は中期経営計画の基本方針のひとつであるサステナブル経営についてです。

冒頭の社長インタビューに「サステナブル経営は究極の目的」という清水社長の力強いメッセージが掲載されており、不二製油グループの意気込みが伝わってきます。本レポートに、6つの重点分野「食の創造」「食の安全・安心・品質」「サステナブル調達」「環境」「人づくり」「リスクマネジメント」ごとに、2014年度の目標に対する実績と中期目標への到達度が掲載してあります。これらの分野においても数値化できるところは数字で指標を立てられると、取り組みの達成度や進捗状況がさらにわかりやすくなると思います。

二点目はサステナブル経営の柱となる大豆事業です。世界では、人口増加が2050年までに人口が95億人に達すると見込まれています。将来にわたり植物性たんぱく質を安定供給するために、不二製油グループは大豆事業に注力されていますが、非常に重要な取り組みだと思います。独自に編み出したUSS製法による「プレミアム豆乳」を、ブランド化し、新商品やレストランのメニューなどへと利用拡大されていくことを希望します。大豆生産については、一部ではありながら国産化を進めていることを大いに評価したいと思います。日本の大豆の自給率は6%(平成25年度 農林水産省資料)と非常に低いです。海外からの輸入大豆に比べればずっとコスト高にはなるのですが、日本における持続可能な農業を推進するために、大豆農家の支援や農山村と都市部の交流などに

も引き続き力を入れていただきたいと思います。

三点目はサステナブル調達です。

カカオ豆、パーム油、シアに代表される不二製油グループの基幹原料は途上国を原産地としています。生産現場では環境問題や児童労働、強制労働など人権・労働問題がおきるリスクは高いです。大豆生産においても、途上国での農業投資が加速化し、大規模な大豆生産のために現地農民の土地収奪や環境破壊などの負の影響が問題となっているケースも報告されています。不二製油グループが、グローバルな認証制度を尊重し幅広い分野のステークホルダーと対話と連携を重ねながら、サステナブル調達とトレーサビリティへの取り組みを進めていることを高く評価します。原料供給メーカーとして仕入先や供給先とどのように連携しているかなどについても情報開示をしていただけると良いと思います。認証取得は持続可能な調達への大きな一歩とはいえ、それだけでは不十分です。森林破壊や生物多様性の減少、児童労働といった地球規模課題を常に意識しながら、現地のステークホルダーとの対話や、NGOや関連機関などの情報共有を継続的に行っていただきたいと思います。

多様性への配慮と食の安全について。

グローバル企業としてハラルやコーシャへの対応を進めていることは高く評価します。日本では近年、「多様性」が大きなキーワードになってきましたが、異なる文化や宗教、食生活を尊重することなしに多様性が社会に根付くことはないと思うからです。今後、取り組みを強化されることを期待します。

最後に、アメリカ食品医薬品局によるトランス脂肪酸使用への規制は、日本でも大きく報道され、人々の間に懸念が広がっています。不二製油グループには、対応状況や方針などをこまめに情報提供していただくことをお願いしたいと思います。



一般財団法人CSOネットワーク
事務局長・理事

黒田 かをり 氏

(専門分野)コミュニティへの参画
およびコミュニティの発展



お問い合わせ先

不二製油グループ本社株式会社 CSR・リスクマネジメントグループ

〒530-0005 大阪市北区中之島3丁目6番32号 ダイビル本館

TEL / 06-6459-0703 FAX / 06-6459-0711

URL / http://www.fujioilholdings.com/approach/csr_contact.html



不二製油グループは国連グローバルコンパクトに署名しています。



この印刷物は環境に考慮し、ベジタブルインキ・水なしオフセット印刷で制作しています。